

文書番号	PRQMEM001F-09
施行日	2024年 4月 8日
作成者	品質安全向上室

ジャスト便 フィルム【安全・品質ハンドブック】

フィルム取り扱い用



ダイセー倉庫運輸株式会社

目 次

・主な使用用途	2P	・フィルム(原反)P/L品の荷扱方法 注意④-3	24P
・フィルムの取り扱い注意事項	3P	・フィルム(原反)P/L品の荷扱方法 注意⑤-1	25P
・ケアマークの種類	4P	・フィルム(原反)P/L品の荷扱方法 注意⑤-2	26P
・フィルム(原反)の種類	5P	・フィルム(原反)P/L品のハイ付・ハイ取り要領①	27P
・フィルム(原反)の荷扱い方法①	6P	・フィルム(原反)P/L品のハイ付・ハイ取り要領②	28P
・フィルム(原反)の荷扱い方法②	7P	・P/L品 悪いハイ付け例①	34P
・フィルム(原反)の荷扱い方法 注意:1	8P	・P/L品 悪いハイ付け例②	35P
・フィルム(原反)の荷扱い方法 注意:2	9P	・P/L品 悪いハイ付け例③-1	36P
・フィルム(原反)の荷扱い方法 注意:3	10P	・P/L品 悪いハイ付け例③-2	37P
・フィルム(原反)の荷扱い方法 注意:4	11P	・P/L品 悪いハイ付け例④-1	38P
・フィルム(原反)の荷扱い方法 注意:5	12P	・P/L品 悪いハイ付け例④-2	39P
・バンド掛け見本	13P	・縦置きフィルムの段積み保管する際の注意点	40P
・フォークリフトで荷役・運搬前の確認事項	14P	・移動ラック・固定ラックへ棚入れ前の注意点	41P
・ フィルム製品の種類・誤出荷防止の検品方法について	15P	・車両へ積み込む際の養生について①～⑥-2	42P
・フィルム(製品)の荷扱い注意事項	16P	・車両荷台上での荷扱い注意	49P
・出入荷時の外観チェックで外装破損に気づきましょう	17P	・フィルムのハイ付け、積込み技術の大切さ	50P
・フィルムの基本ハイ取り	18P			
・フィルム(原反)P/L品の荷扱方法 注意①	19P			
・フィルム(原反)P/L品の荷扱方法 注意②	20P			
・フィルム(原反)P/L品の荷扱方法 注意③	21P			
・フィルム(原反)P/L品の荷扱方法 注意④-1	22P			
・フィルム(原反)P/L品の荷扱方法 注意④-2	23P			

主な使用用途

食品用包材

お菓子・レトルト食品などの包材etc



産業用

ソーラーパネル・液晶などの
電子部品etc



- * 食品包材などで使用する場合、フィルムに臭いが吸着していると使用不可になってしまうので注意しましょう。
- * 電子部品で使用する場合、紫外線などの変質やフィルムの傷で使用不可になってしまうので注意しましょう。

フィルムの取り扱い注意事項

[取扱い注意事項]

1・水濡れ厳禁

全ての商品に注意が必要



2・高湿度 結露厳禁

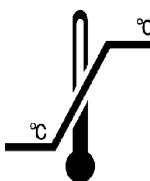
全ての商品に注意が必要

カビなどの原因

3・高温度厳禁

定温品の保管は温度管理が必要

夏季は高温のため積み置き厳禁



4・直射日光が当たらない場所で 常温・常湿での保管が必要

全ての商品に注意が必要

フィルムの変質の原因



5・臭いの吸着注意

臭いが吸着しやすいので

臭いが強い物と一緒に保管は厳禁

ケアマークの種類



「取扱い注意」

衝撃を与えないよう
に丁寧な扱いが求め
られます。



「カッター注意」

箱の開梱時にカッ
ターを使う場合、内容
物に注意が必要です。



「天地無用」

内容物に影響が出る
為、上下を逆さまに
してはいけない。



「水濡れ注意」

フィルムは水に弱い
為、水濡れに対して
注意が必要です。



「直射日光」

「熱遮へい」

熱に弱いフィルムが
ある為、直射日光や
熱遮へいが求められ
ます。

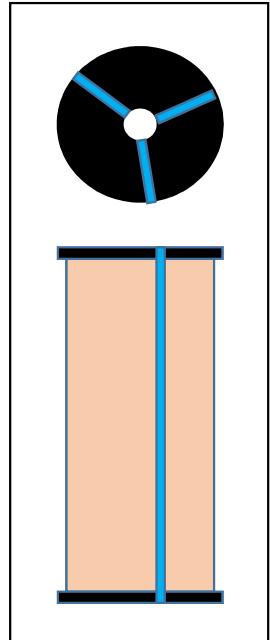


「段積制限」

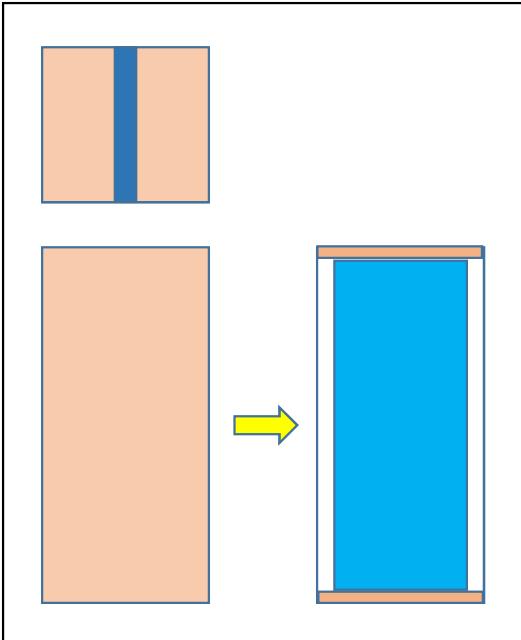
積み重ねられる制限
を示します。

フィルムの種類によって扱いが変
わる為、その特性によって注意す
べき点が左記の様なケアマークで
記されています。
それぞれの意味を理解して慎重
な荷扱いを行いましょう。

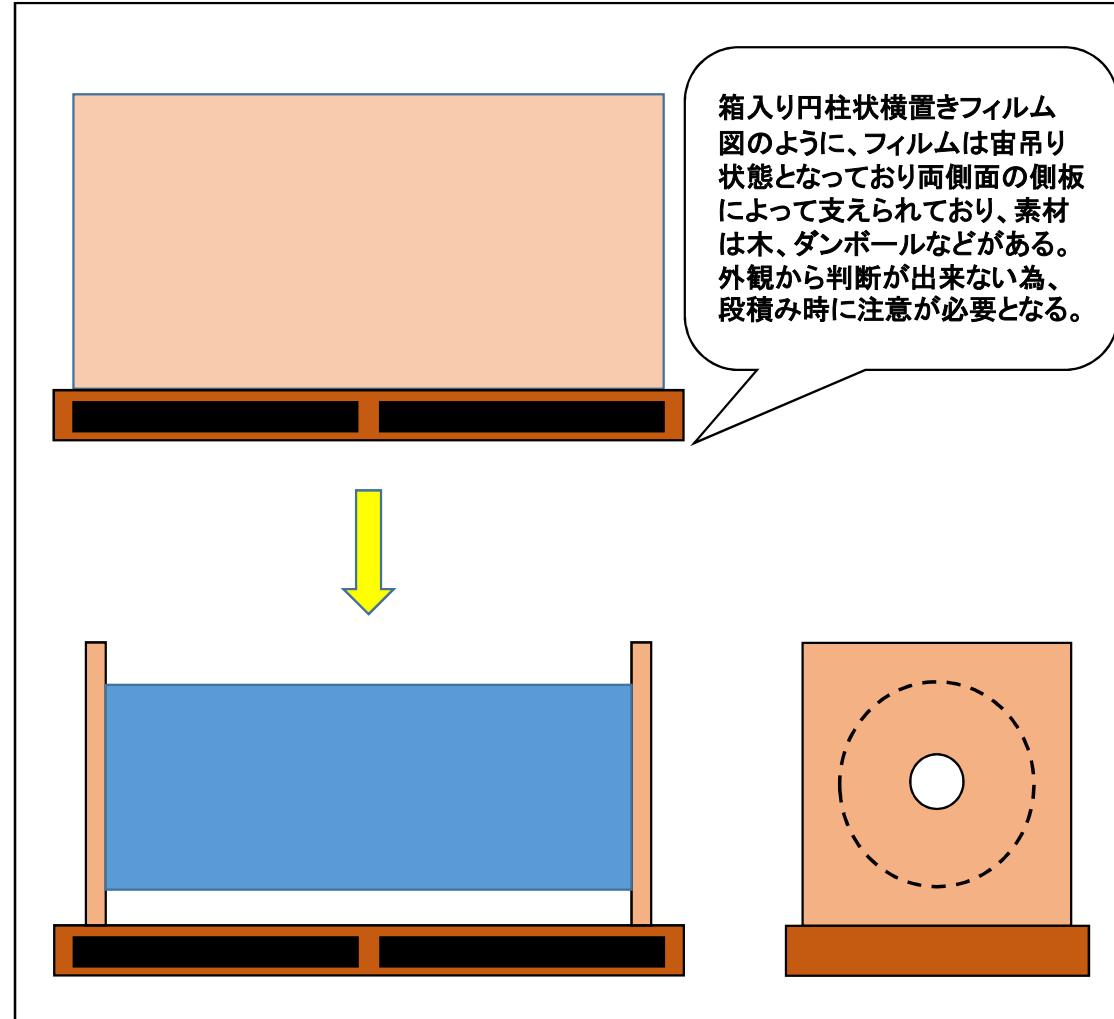
フィルム(原反)の種類



円柱状の縦置き
フィルム

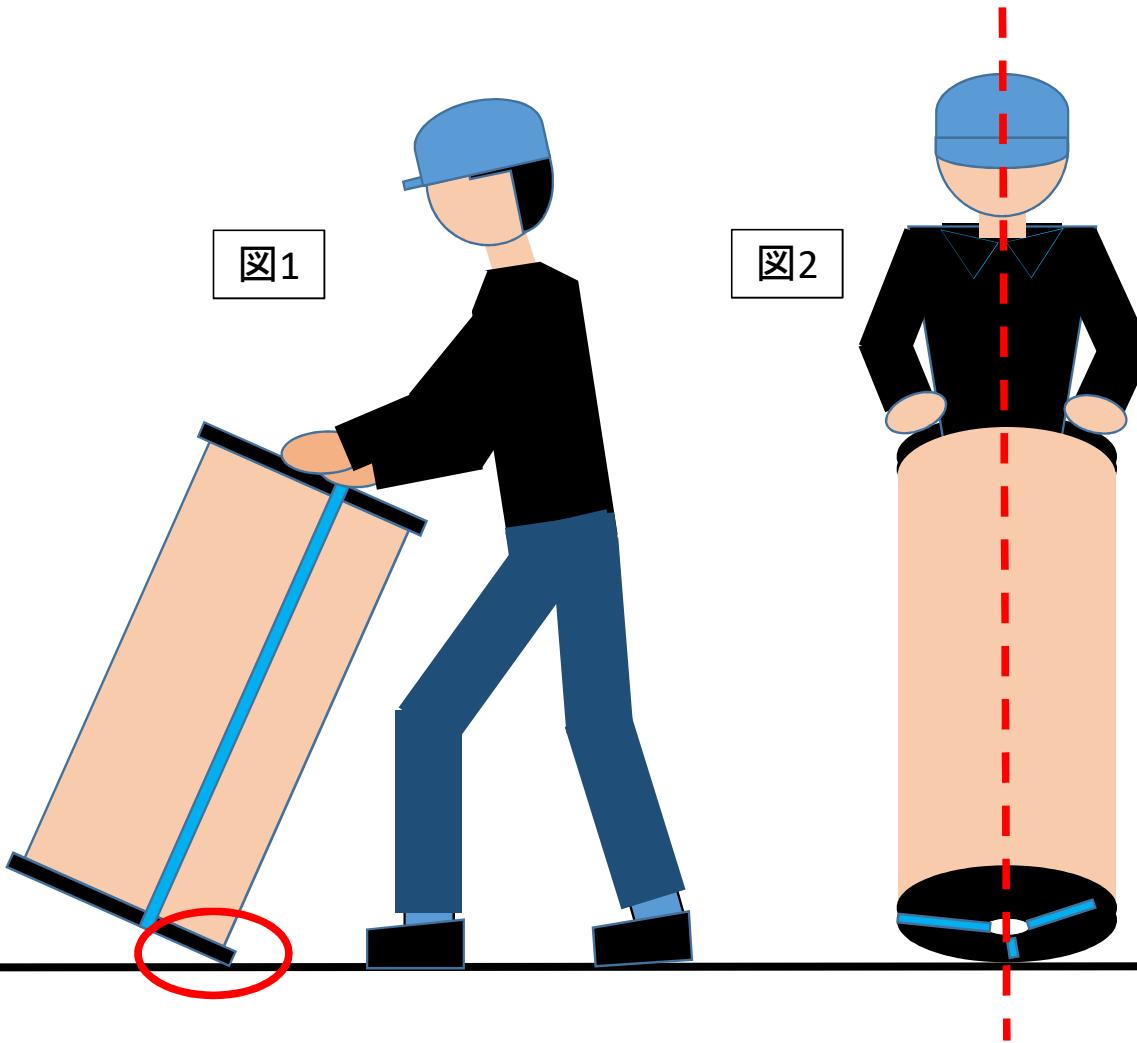
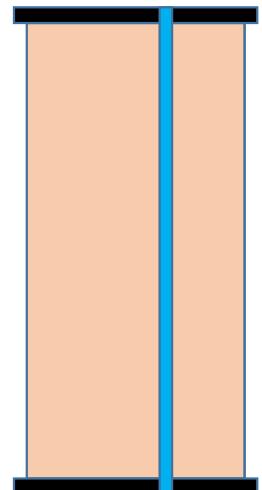
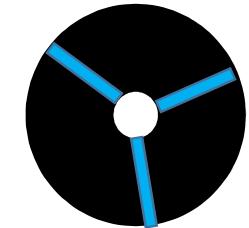


箱入り円柱状縦置き
フィルム



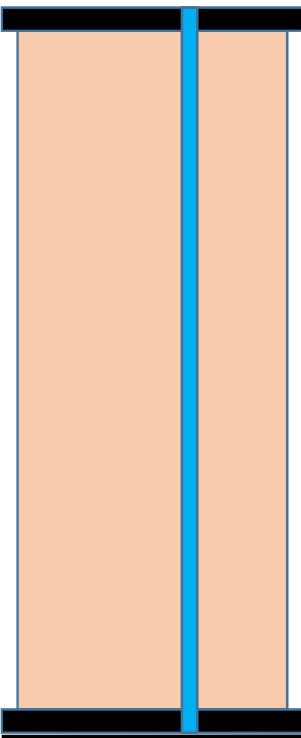
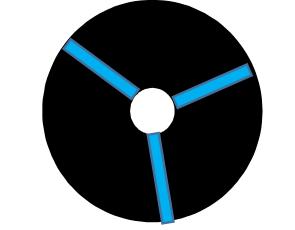
箱入り円柱状横置きフィルム
図のように、フィルムは宙吊り
状態となっており両側面の側板
によって支えられており、素材
は木、ダンボールなどがある。
外観から判断が出来ない為、
段積み時に注意が必要となる。

フィルム(原反)の荷扱い方法

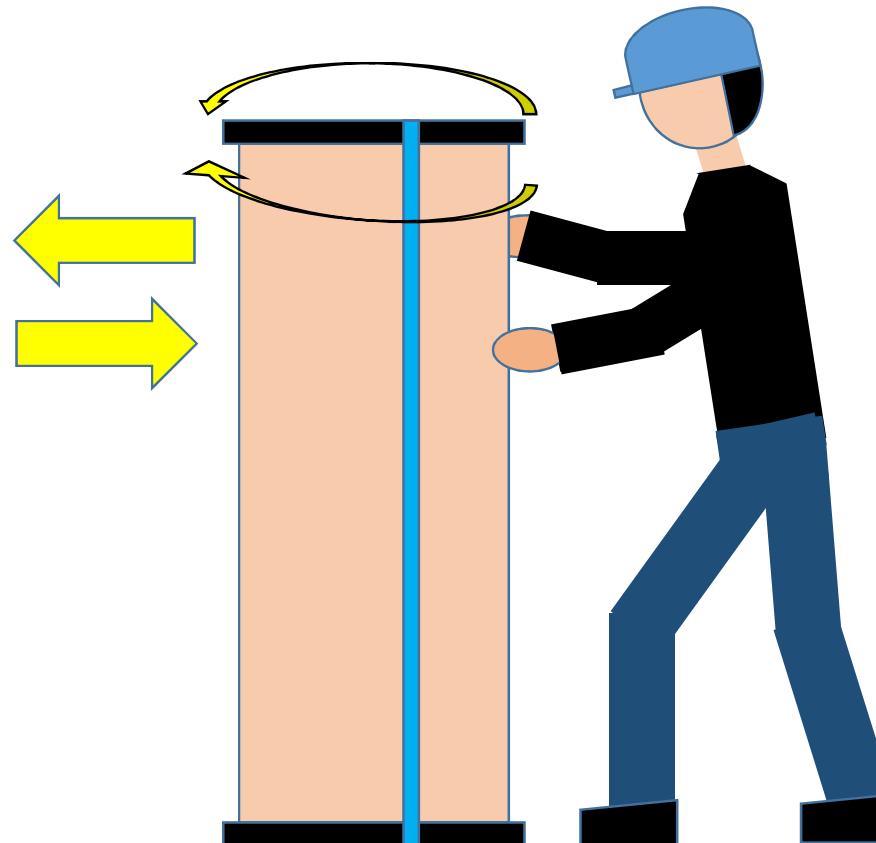


フィルム(原反)を転がして移動する前の姿勢として、図2のように、体の中心軸と合わせ図1のように、手前に引く。図1の赤丸が支点となるが、その際にバランスが悪いと転倒する。バランスが取れていれば、力を入れて持たなくとも手を添えているだけの感覚となる。

移動する際は、図2のように、フィルムに対しては絶えず身体を中心軸に合わせ行わなければならない。また、図2のバランスにも注意しなければならない。



フィルム(原反)の荷扱い方法



フィルム(原反)を傾けずに
移動する場合

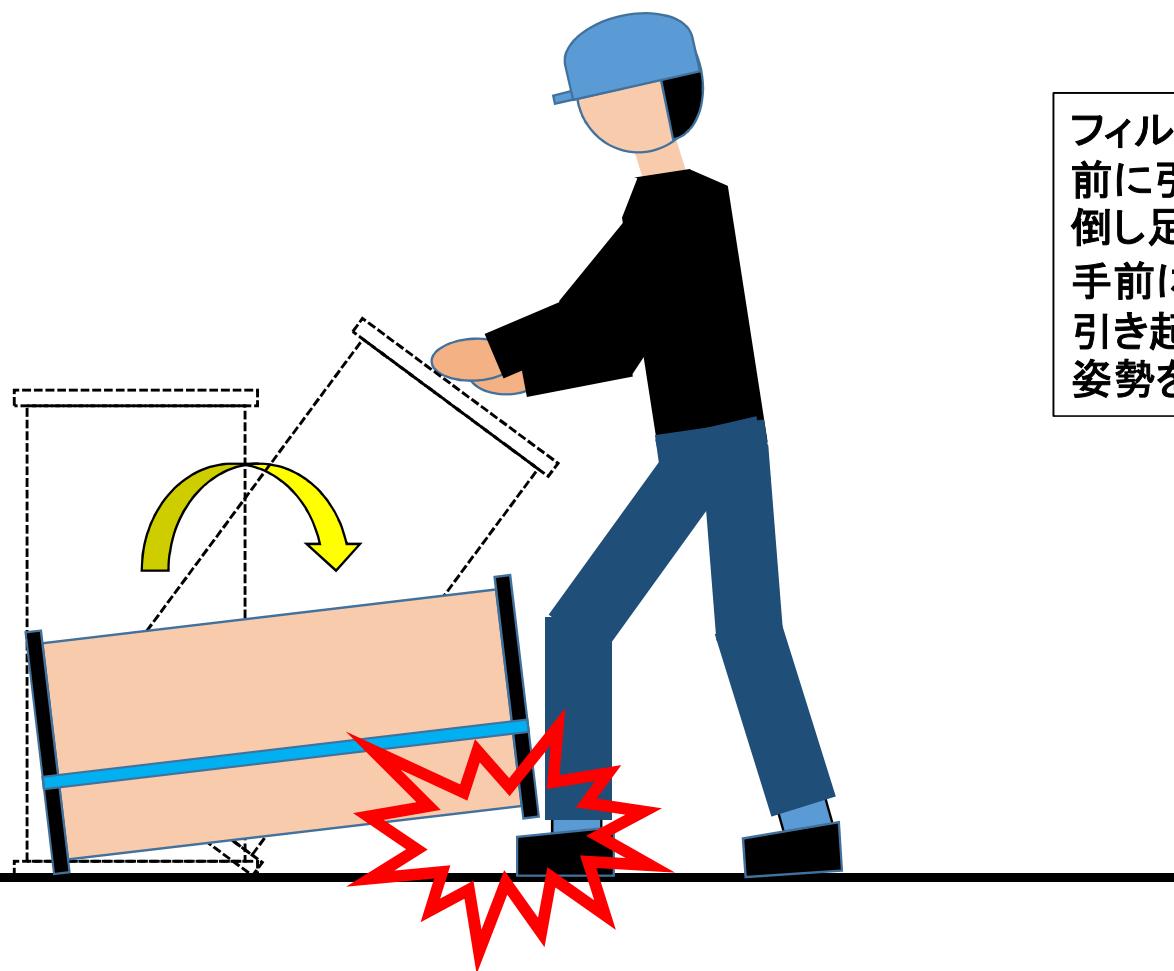
重量の有る物(手前に傾けると危険な物)に対しては、
原反を左右にずらしながら
前に押すか、後ろに引いて
移動させる。

フィルム(原反)の荷扱い方法 注意:1



フィルム(原反)を、パレットやトラック荷台等で積載する際に寄せる時
指を挟む。
併せ面に手を置いた状態で寄せないこと。

フィルム(原反)の荷扱い方法 注意:2



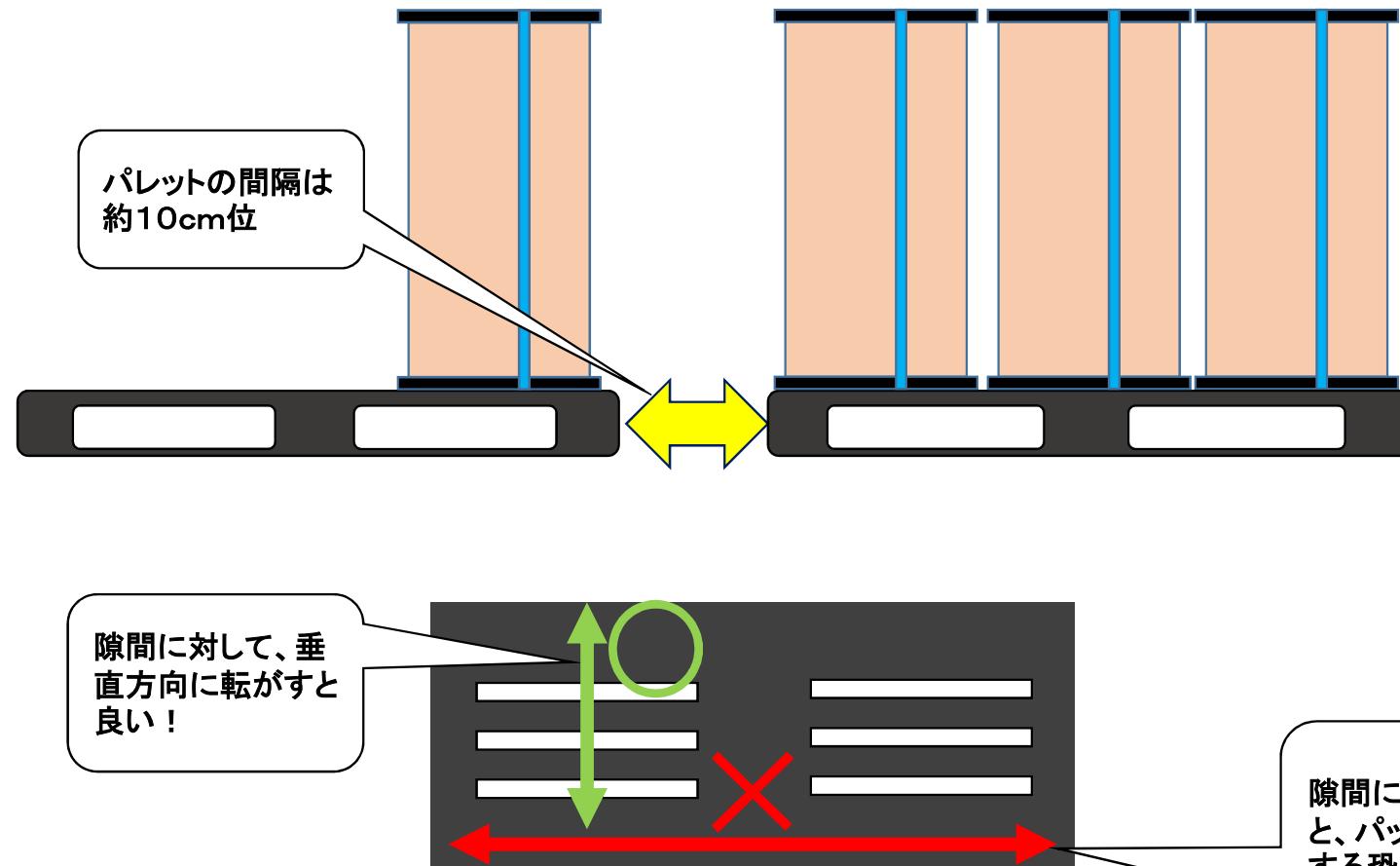
フィルム(原反)を、転がすために手前に引き起こした際、引きすぎて転倒し足の上に落ちる。
手前に引き起こす際は、ゆっくりと引き起こしバランスを確認しながら、姿勢を作る。

フィルム(原反)の荷扱い方法 注意:3



フィルム(原反)を、パレットやトラック荷台等で積載する際、寄せる時にフィルム同士が接触し破損する。寄せる時に、間隔を目視で確認しながら行き間隔が近くなったら手前で置き、押して寄せる。

フィルム(原反)の荷扱い方法 注意:4



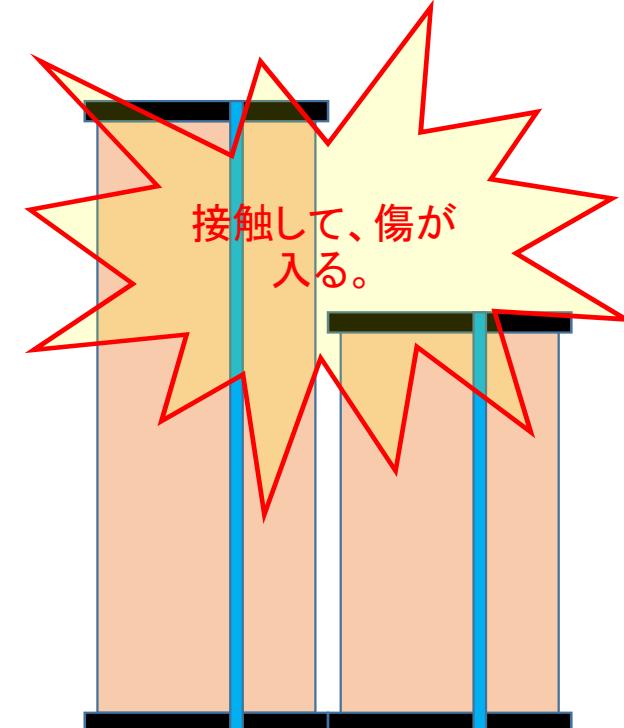
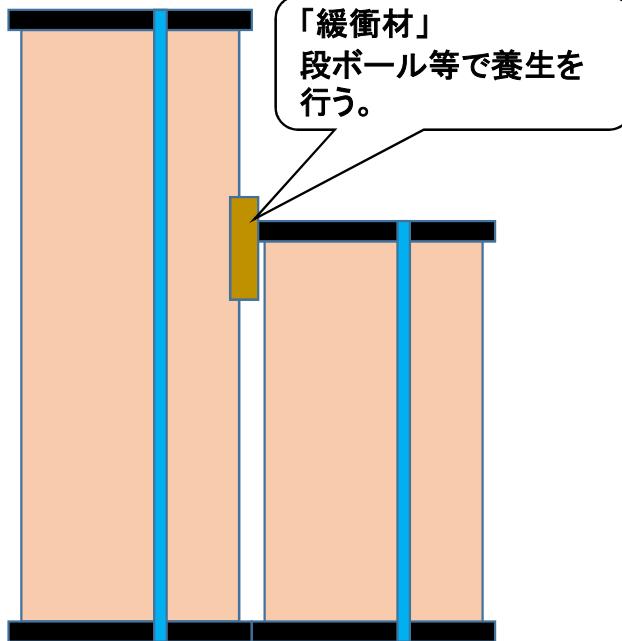
フィルム(原反)をパレットからパレットに移動する場合

パレットの間隔が極端に広すぎると移動した場合に原反が落ち込む可能性がある為、パレットとパレットの間隔を約10cm以内とする。

また、パレットの上面に隙間が空いていると、その隙間にパット等が落ち込みバランスを崩して転倒する要因になる為注意が必要となる。

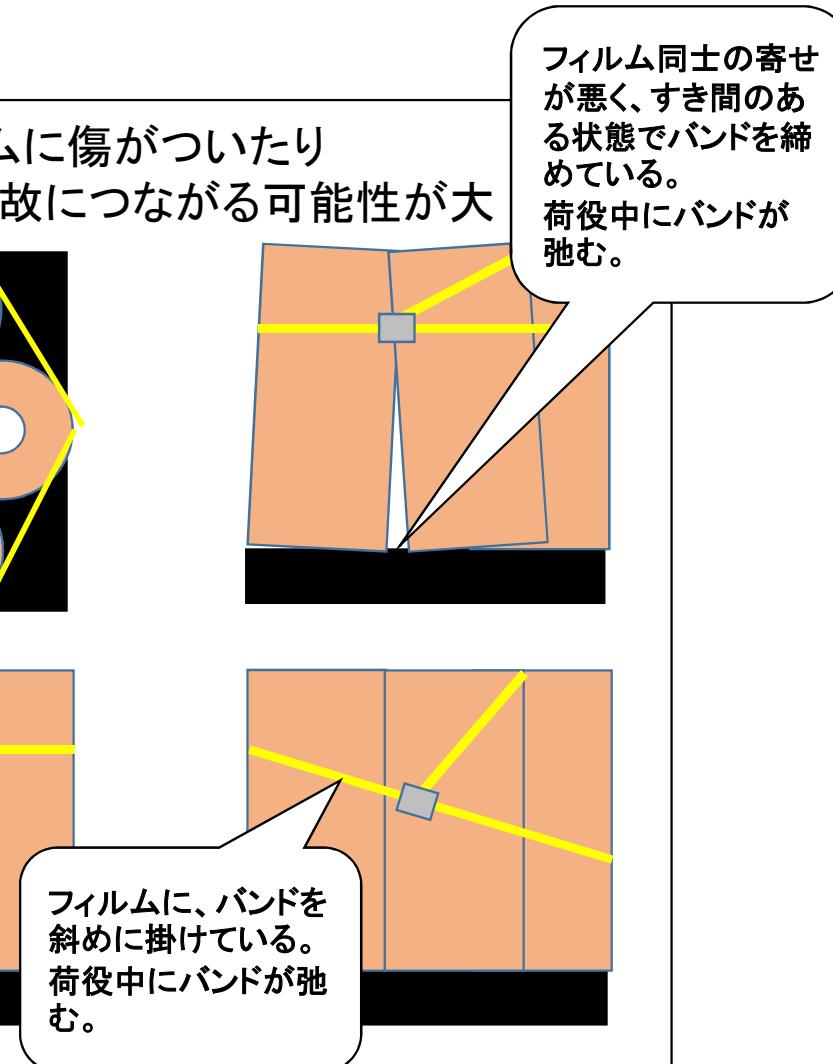
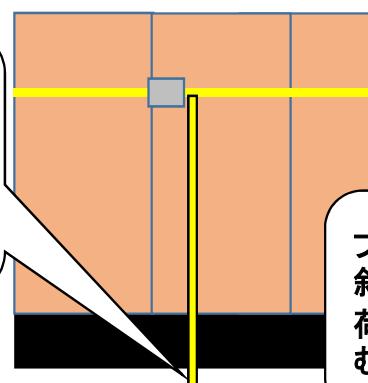
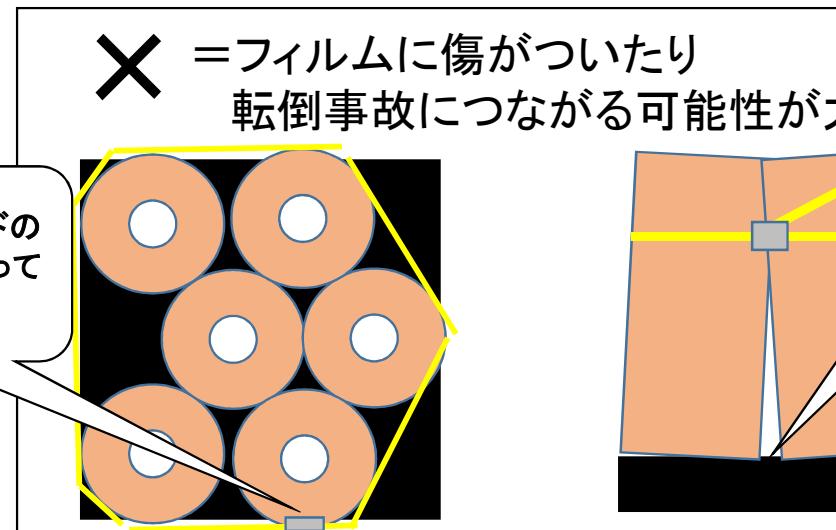
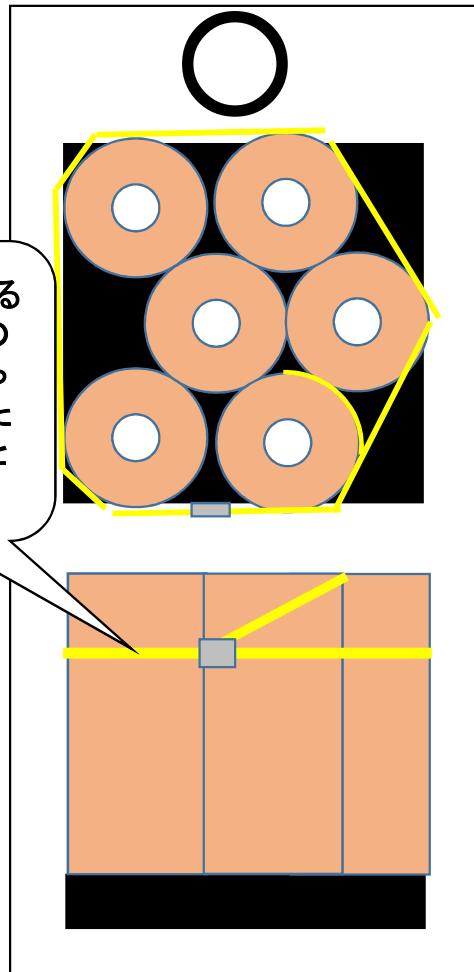
隙間にに対して平行に転がすと、パット等が落ち込み転倒する恐れ！

フィルム(原反)の荷扱い方法 注意:5



フィルム(原反)を、パレットやトラック荷台上で積み合わせる際、高さが違う商品の場合は外装または外装内側のフィルムに傷が入る可能性があるので、寄せる際は強く接触しないように注意する。また、寄せ終わった後に商品によっては緩衝材を使用すること。

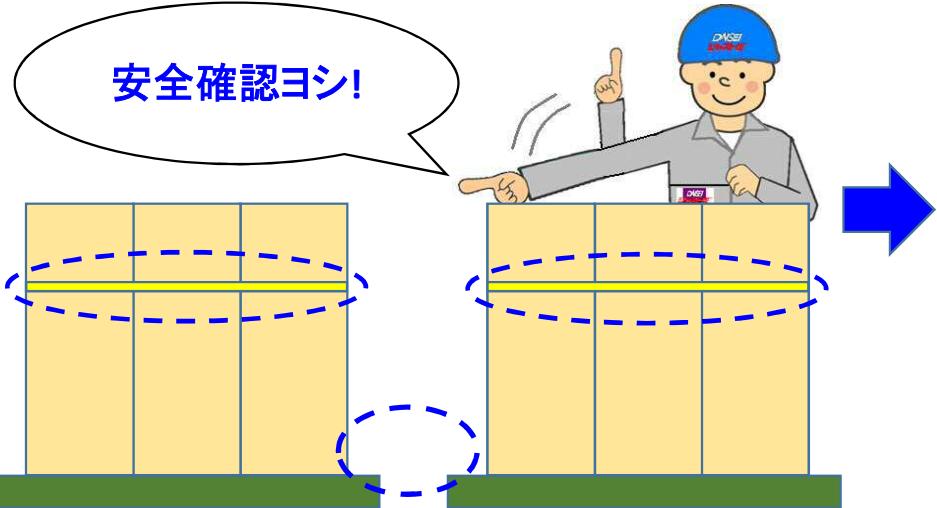
バンド掛け見本



フィルム同士の寄せが悪く、すき間のある状態でバンドを締めている。
荷役中にバンドが弛む。

フォークリフトで荷役・運搬前の確認事項

安全確認ヨシ!

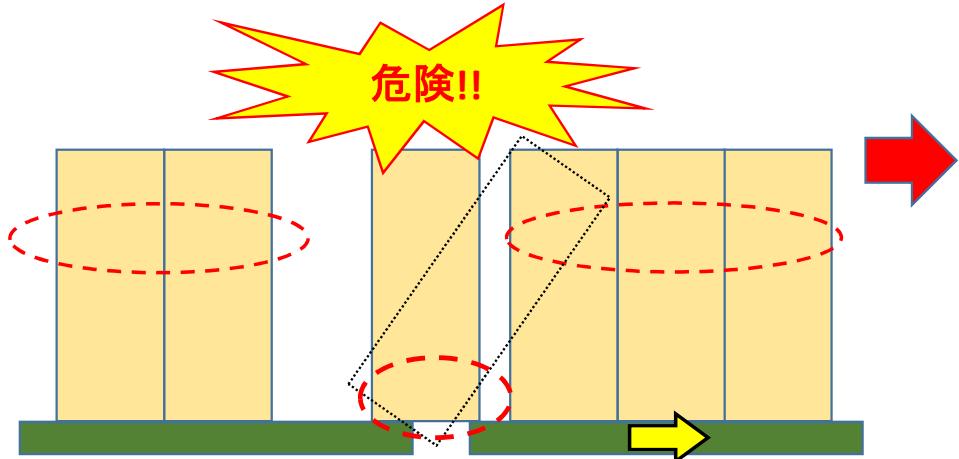


フォークリフトで荷役・運搬を行う前に、荷役する
パレットの一一周を必ず確認。

【パレット一周確認】

- ①パレット間に荷物が跨いで置かれていなかい。
- ②荷物に正しくバンドの固定はされているか。
- ③周囲の人・荷物などに接触の危険はないか。

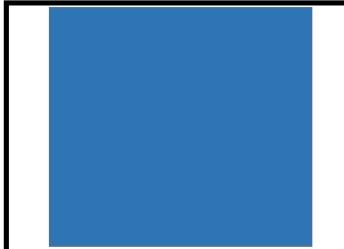
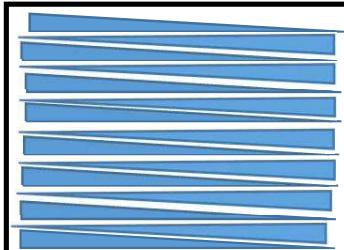
危険!!



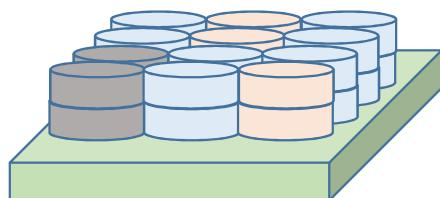
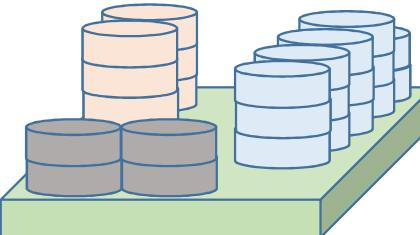
◆転倒事故・人身事故の可能性◆

- ・パレット間に荷物が置かれている。
 - ・固定バンドが正しく掛けられてない。※P13参照
 - ・運搬時、周囲の確認をしていない。
※発進前に入人が近くにいたら「動きます！」声掛けしよう。
- 荷物の転倒は重大事故です。リフトや荷物が人と接触すると重大な人身事故に繋がります。

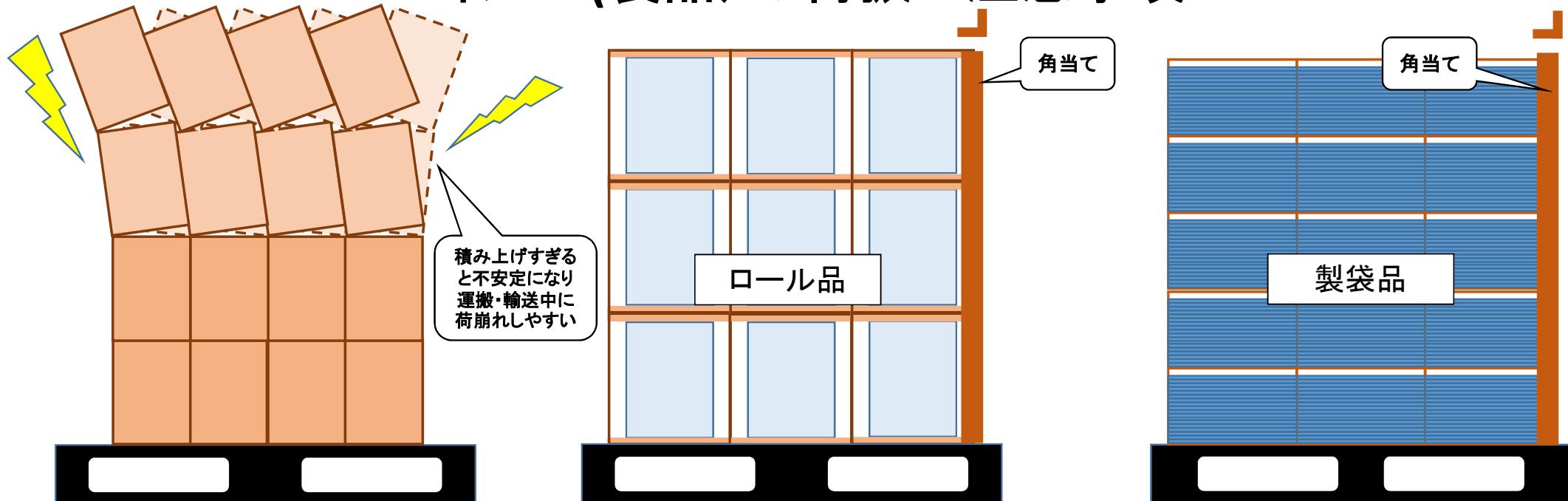
フィルム(製品)の種類

<p>ロール品</p> 	<p>ケースの内部には巻取品が収められており、内部の上下にほぼ空間は無い。</p>	 <p>品名:○○○○○ ロット:123456789 Size :300 × 1000m</p>	<p>ロール品の場合のラベル表記</p> <p>数量表記が巻m、巻数となっている。</p>
<p>製袋品</p> 	<p>ケースの内部には袋状のフィルムが横向き又は縦向きに収められている。上からの圧力には極端に弱い。</p>	 <p>品名:○○○○○ ロット:123456789 Size :300 × 1000枚</p>	<p>製袋品の場合のラベル表記</p> <p>数量表記が枚・袋となっている。</p>

誤出荷防止の検品方法について

 <p>※色の違い＝品種・巻数・入数などの違い 混載されている状態のまま検品を行うと、見誤りやすいので誤出荷が起きやすくなる。</p>	 <p>※色の違い＝品種・巻数・入数などの違い 著しく細かく、検品が困難な時は、種類別に仕分けてから検品を行うと識別しやすいので誤出荷防止になります。</p>
--	--

フィルム(製品)の荷扱い注意事項



【リフトでの運搬時やパレット輸送及びバラ輸送中の荷崩れ防止について】

出荷時には安定・安全な荷作りを行う必要があります。無理な高積み、ハイの状態、シュリンクの強度不足に気をつけましょう。

※安定・安全な具合は、荷物の種類によって異なります。[一人で考えずに、必ず現場責任者やリーダーに相談しましょう。](#)

またパレット梱包は荷崩れ防止の為、外箱の強度が弱いものや不安定さの度合いによっては角当てを使用しシュリンクフィルムでパレットと製品と一緒に固縛する事もあります。但し、シュリンクフィルムで強く締めすぎると箱の角が潰れる荷物もあるので注意する事。

【段数、高さの危険性(荷崩れ)について】

ロール品：箱中の上下の空間は無いが、製品周りに空間があるため動きやすく、前後左右の揺れに弱く崩れやすい。

製袋品：箱の上部に空間があるため、上からの圧力に弱く箱が潰れ傾くことで崩れやすくなります。

[※箱の上部を触手で軽く抑えると確認が容易である。](#)

入出荷時の外観チェックで外装破損に気づきましょう

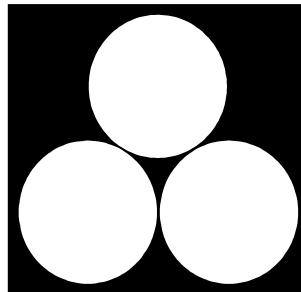


良品の出荷依頼に対して、破損品を出荷してしまうことはいけません。荷物にシュリンクが巻かれていたり、日差しが強いと反射して破損箇所を見落としやすい状況もあります。荷物の状態をしっかりと確認できる状況にしてから、全面に対して正面から外観チェックを行うことが重要です。

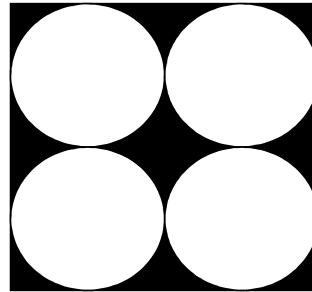


フィルムの基本ハイ取り

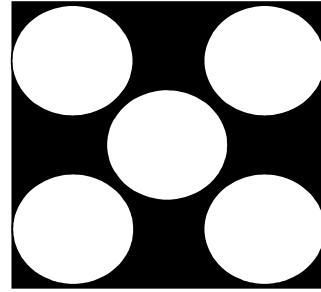
円柱状縦置き
フィルム



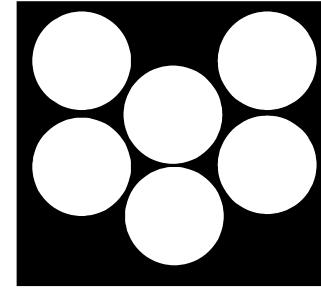
(3本)



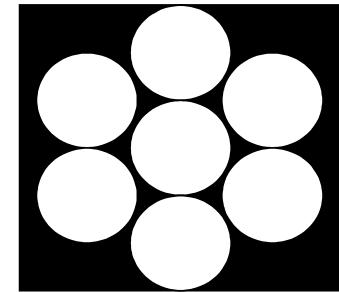
(4本)



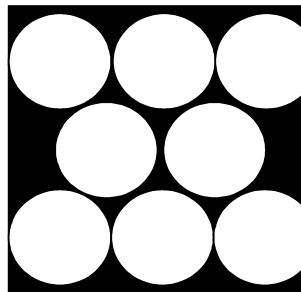
(5本)



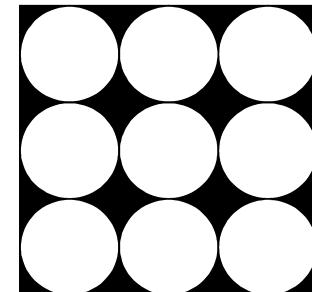
(6本)



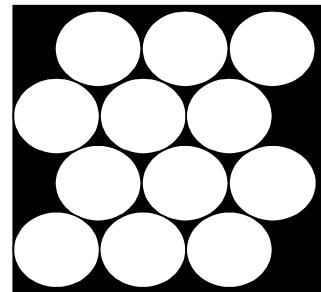
(7本)



(8本)



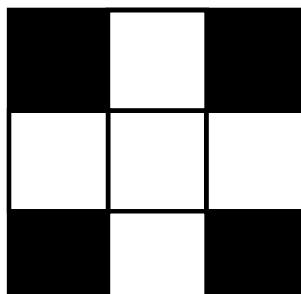
(9本)



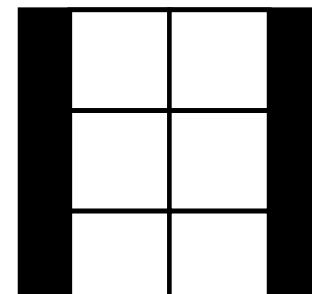
(12本)

縦置きフィルムは荷役・運搬時にバランスを崩しやすい特徴があります。急な発進・停止・旋回をしなくとも揺れたり、転倒に繋がってしまうこともあります。安定するハイ取りを行い、P13に記載されている『正しいバンド掛け』を行う必要があります。但し、**ハイ取り・バンド掛けを行っているから安全と思ってはいけません。**リフト操作次第で転倒してしまうからです。『ハイ取り・バンド掛け』と『フィルムが揺れないリフト操作』が重要になります。

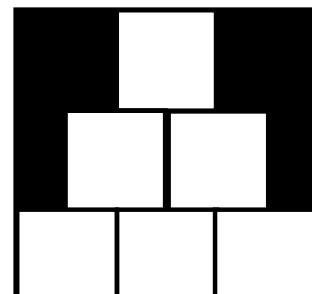
箱入り円柱状
縦置きフィルム



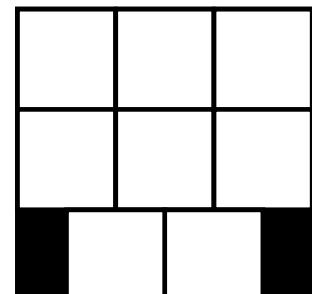
(5本)



(6本)



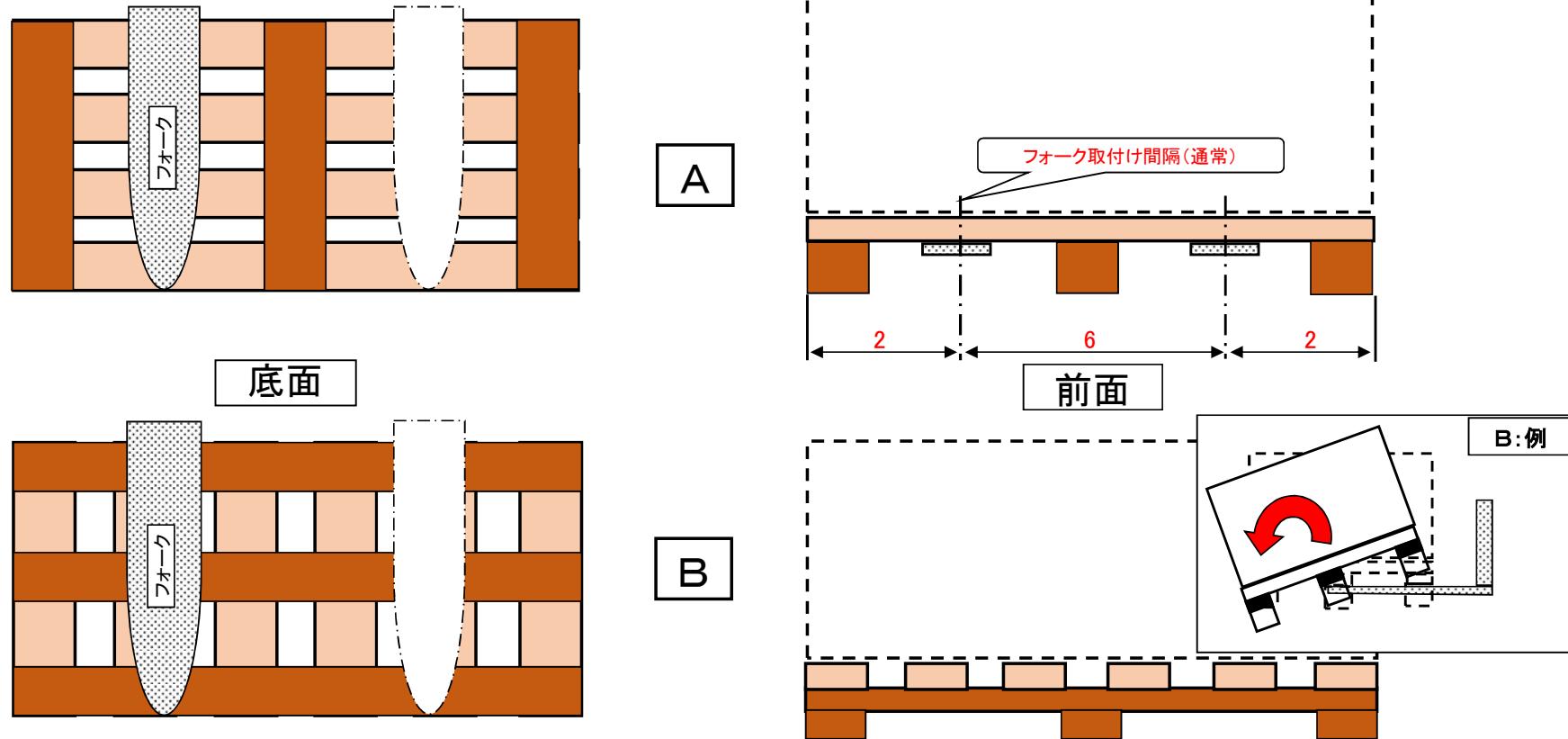
(6本)



(8本)



フィルム(原反)P/L品の荷扱方法 注意①



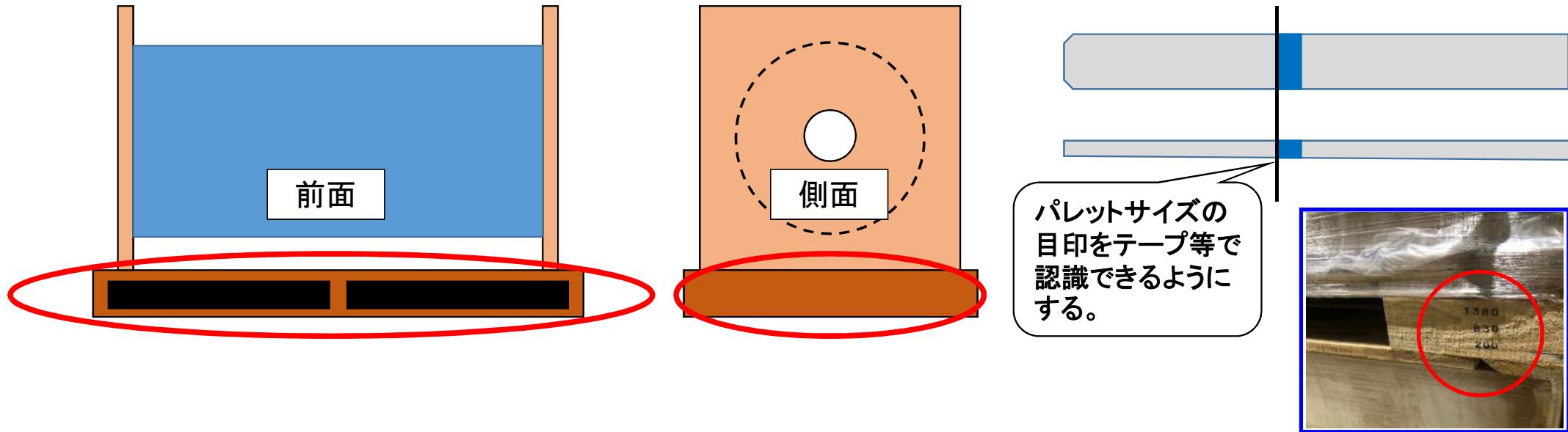
木製の輸入パレット形状は、基本的に上記の形状が多く流通しております。茶色に塗りつぶされた部分が足となっており、正面がフォーク挿入面とした場合、A形状の場合はフォークの当たり面が多く安定した荷役が可能であるが、B形状の場合はフォークの当たり面が3箇所しかなく不安定な荷役となります。特にB形状については、例のように2箇所しかフォークがかかっていなければ**転倒**につながる可能性が大となります。**フォークは、原則根元までしっかりと差し込む。****フォークの取付け間隔は、パレット幅の2分の1以上、4分の3以下程度が基本**となります。

製品及びパレット形状によって条件が異なってきますので十分注意して、荷役を行うこと。**最初の確認が一番重要です。**

確認ポイント=幅・奥行き・板の厚み・形状・製品重量 持ち上げた時の感覚(音・板の反り返りなど五感をはたらかせる)

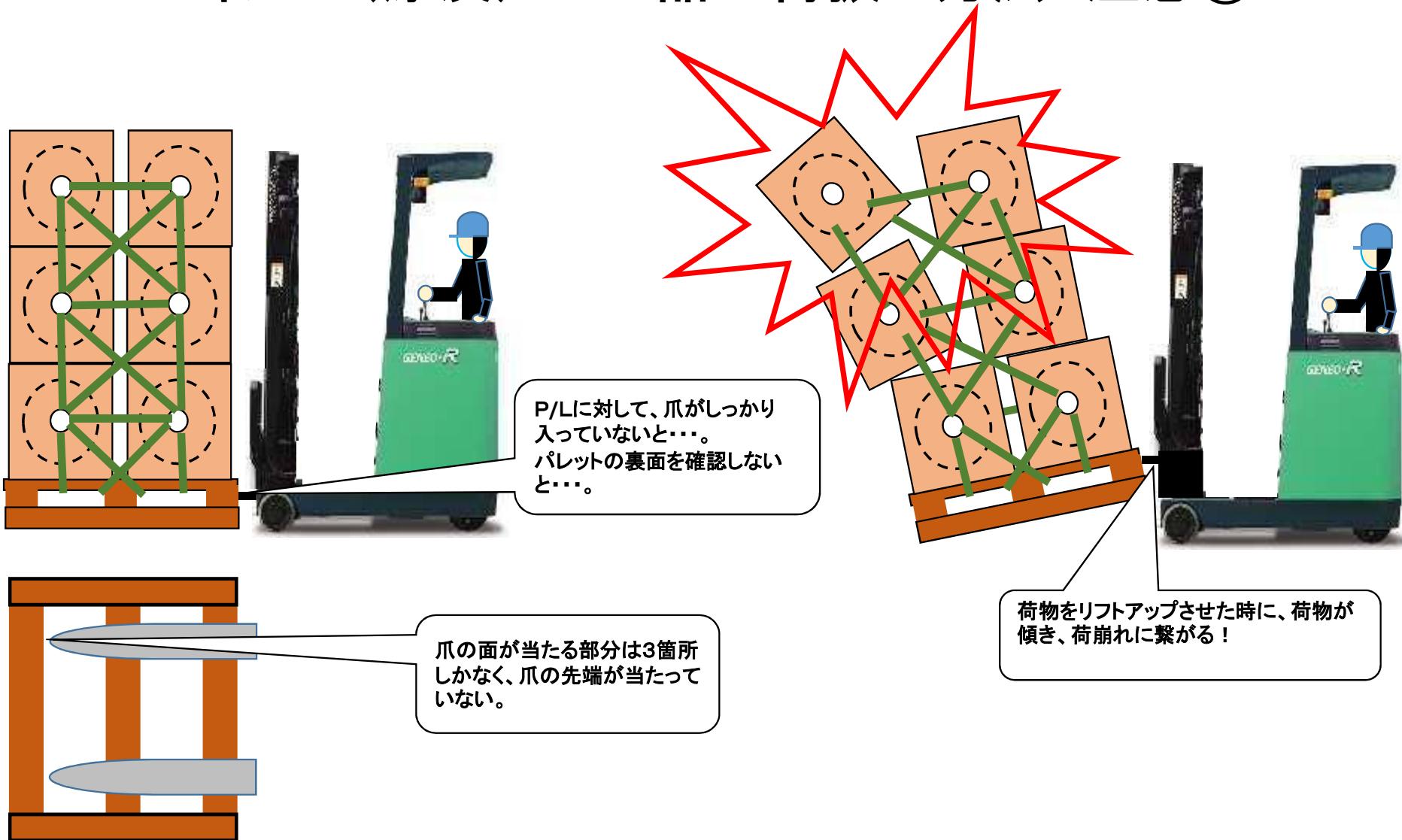
※アルミ架台も同様に底面の形状に注意する必要がある。

フィルム(原反)P/L品の荷扱い方法 注意②

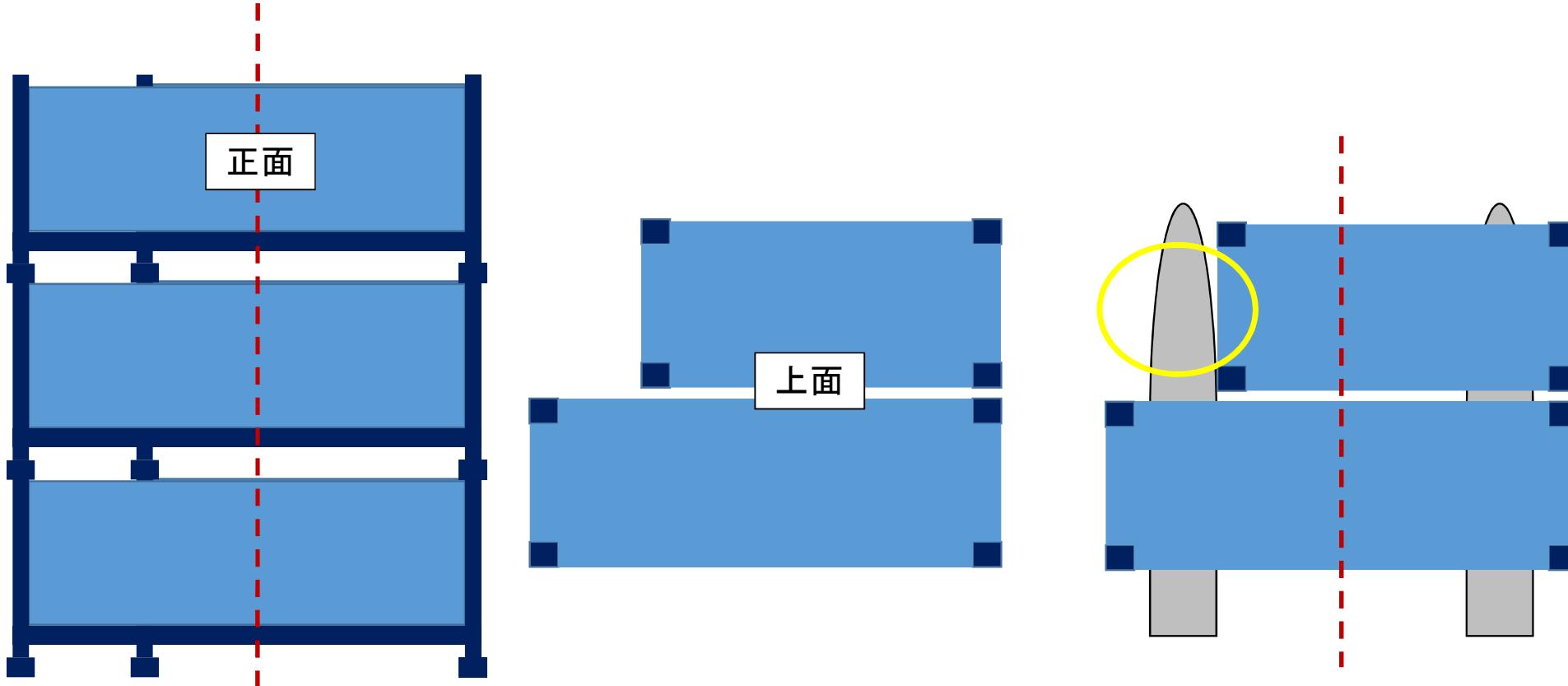


- ①ハイ付け・ハイ取りする際は、P/L前面及び側面にP/Lサイズが印字されていることがあるので確認を行う。
サイズが不明なものについては、メジャー等を使用して計測を実施すること。
- ②フォークに目印(テープ等)を付ける。
- ③目印を基にパレットにフォークを挿入し、フォーク先端の飛び出しが無いことを目視確認で実施すること。
確認においては、目印ギリギリで一度確認を行い、目印が問題ないことを確認すること。

フィルム(原反)P/L品の荷扱い方法 注意③



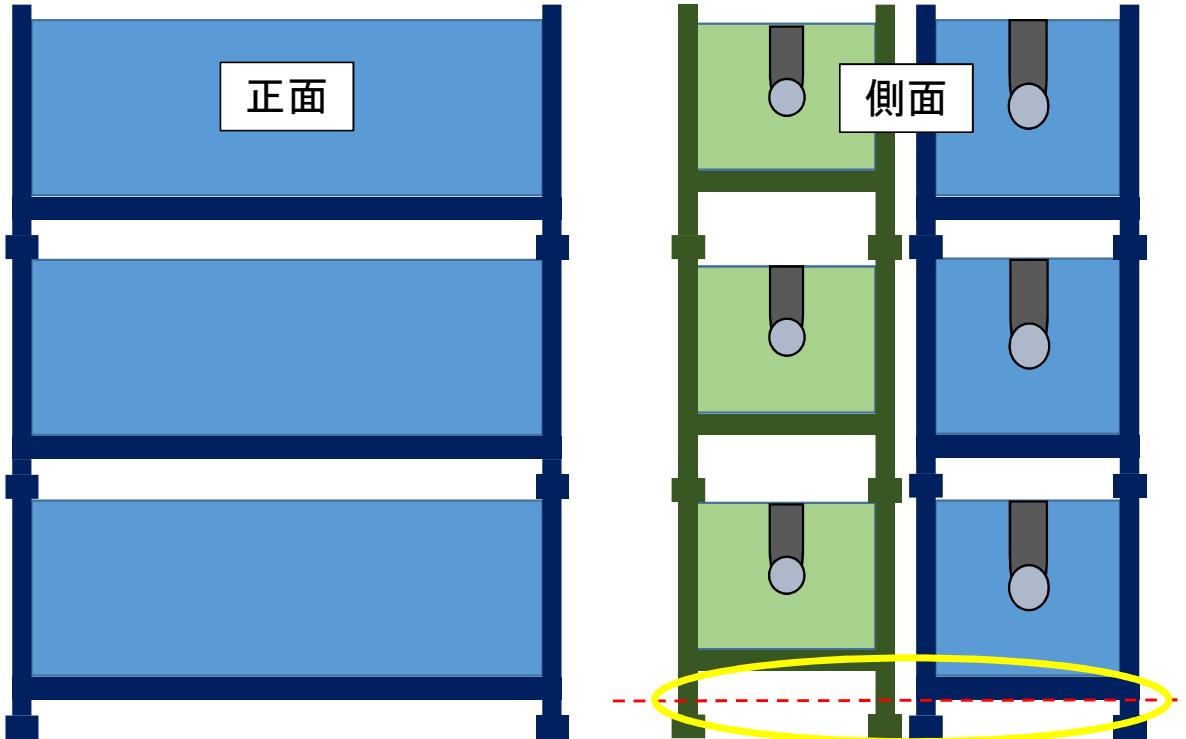
フィルム(原反)P／L品の荷扱い方法 注意④—1 (アルミ鉄架台、注意事項)



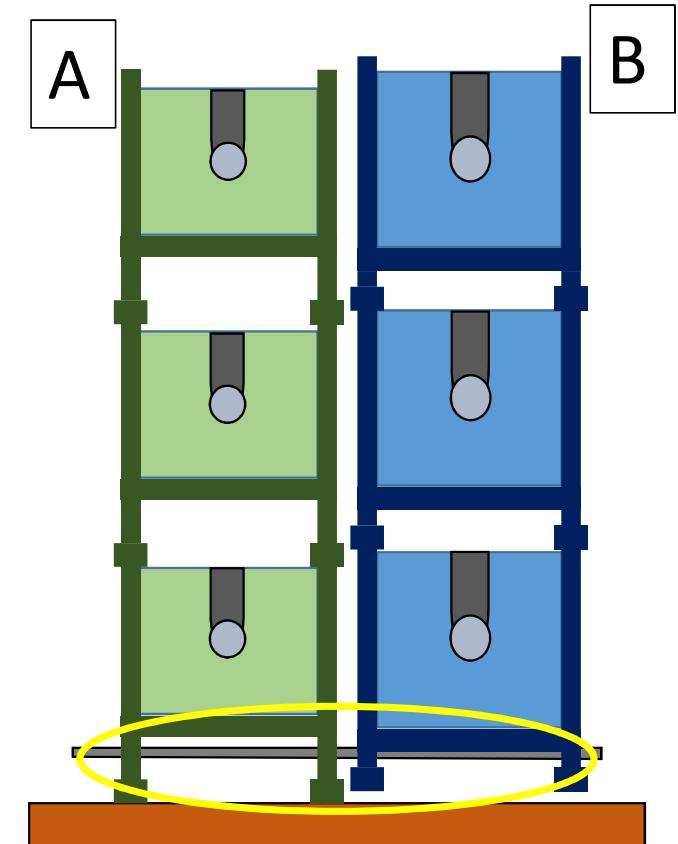
正面から見ると、奥側が幅の狭い商品が確認出来ない事がある。

注：同じ幅と思い、フォークを挿入した際に商品を掏っていないことがある。

フィルム(原反)P/L品の荷扱い方法 注意④ー2 (アルミ鉄架台、注意事項)



正面から見ると、奥側に足の高さが違う商品がある事を、確認出来ない事がある。



注:同じ高さと思い、フォークを挿入した際に商品を掬っていないことがある。
又は、A架台とB架台が逆の場合
爪先がB架台に接触する可能性がある

フィルム(原反)P／L品の荷扱い方法 注意④—3

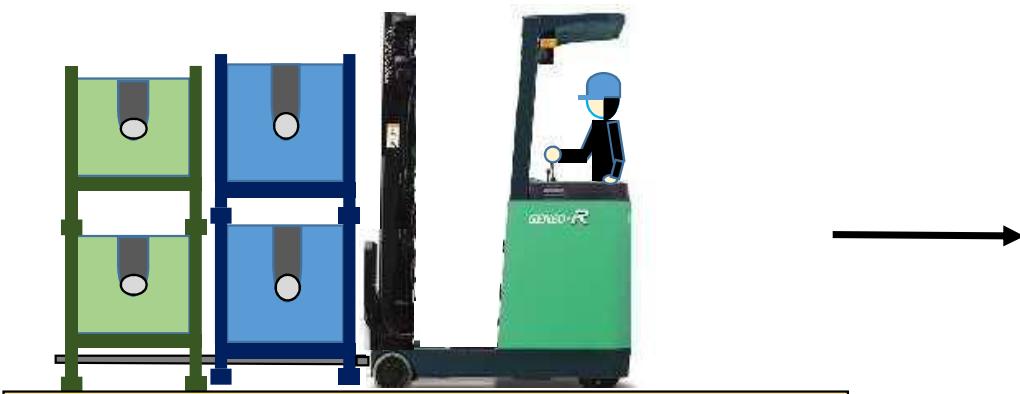
カウンター・リーチリフトでのアルミ鉄架台、荷役時の注意事項



気付かず荷役
すると…

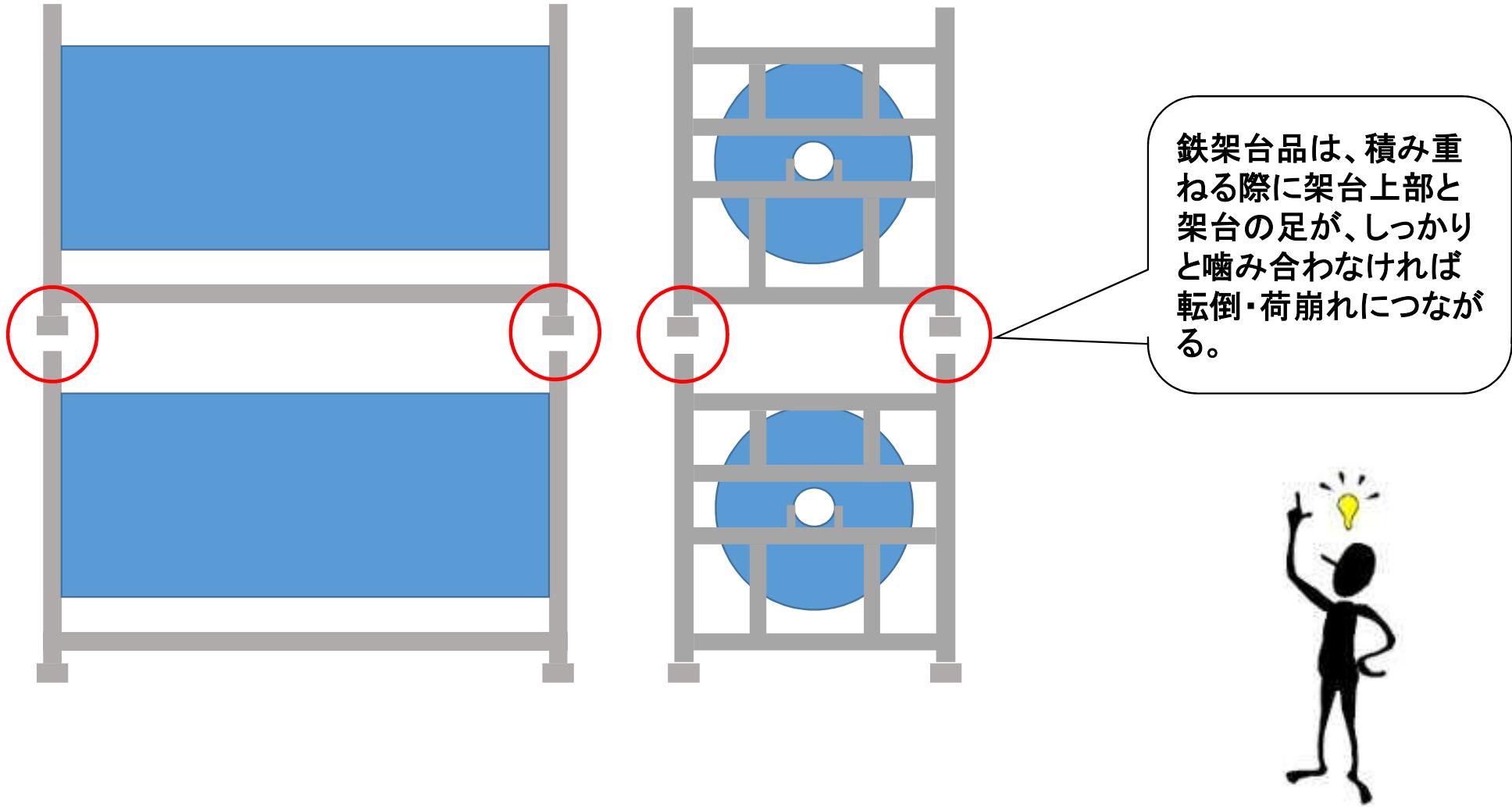


右側の爪は架台に入っているが
左側の爪は架台に入っていない為、
持ち上げた際にバランスを崩して
転倒する。

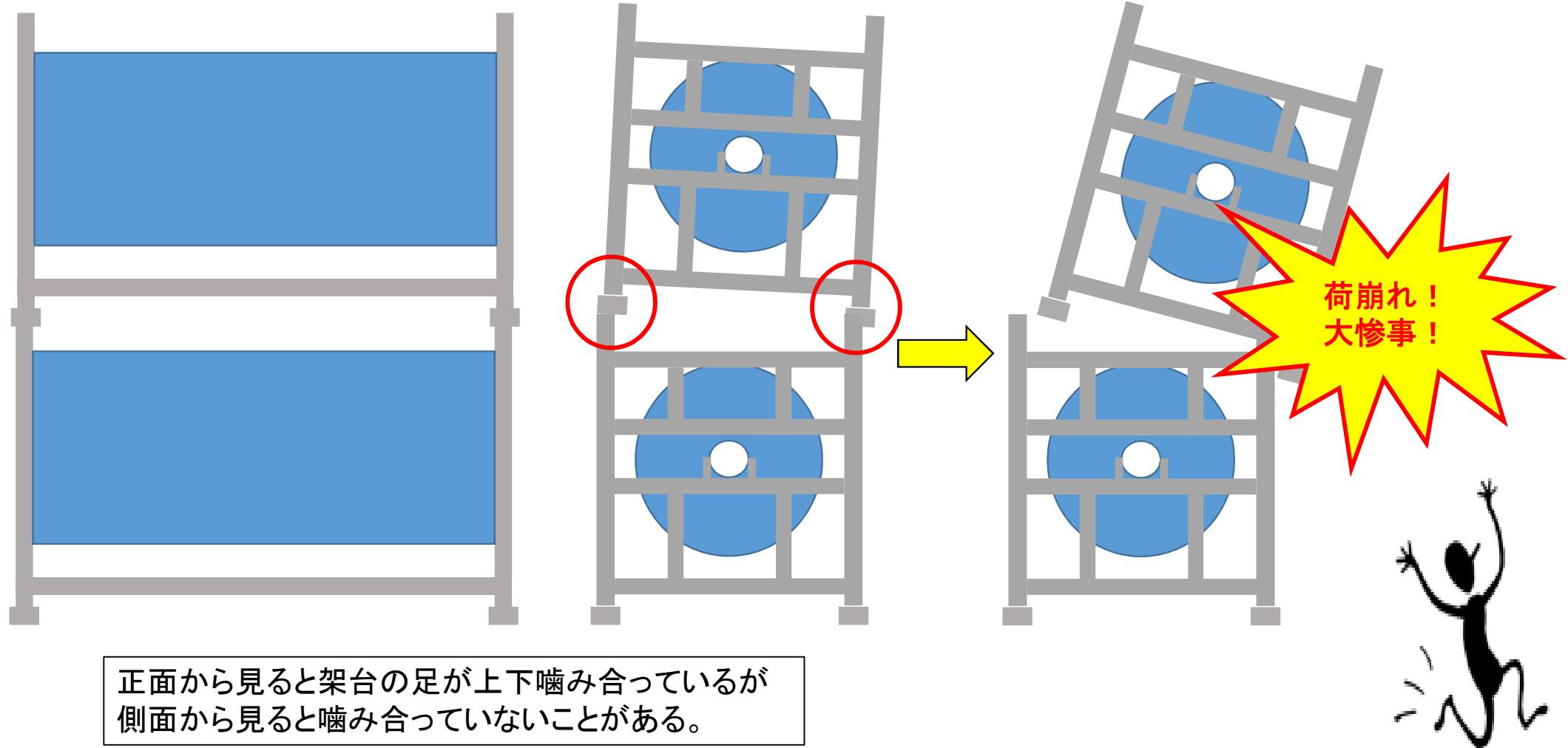


手前側の架台は持ち上がっているが
奥側の架台が持ち上がってない為、
地面に接触している状態で荷役する
と転倒する。

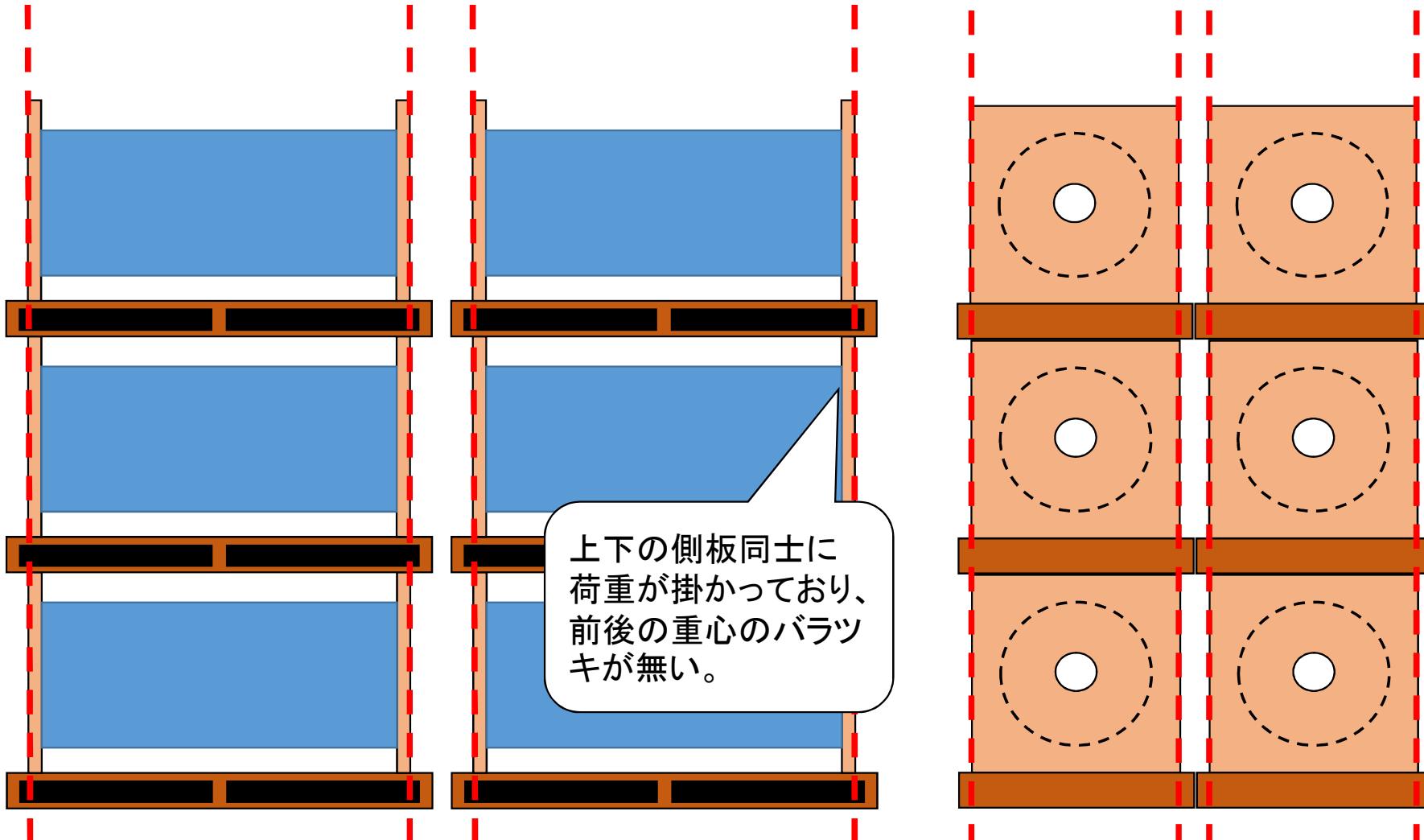
フィルム(原反)P／L品の荷扱い方法 注意⑤—1



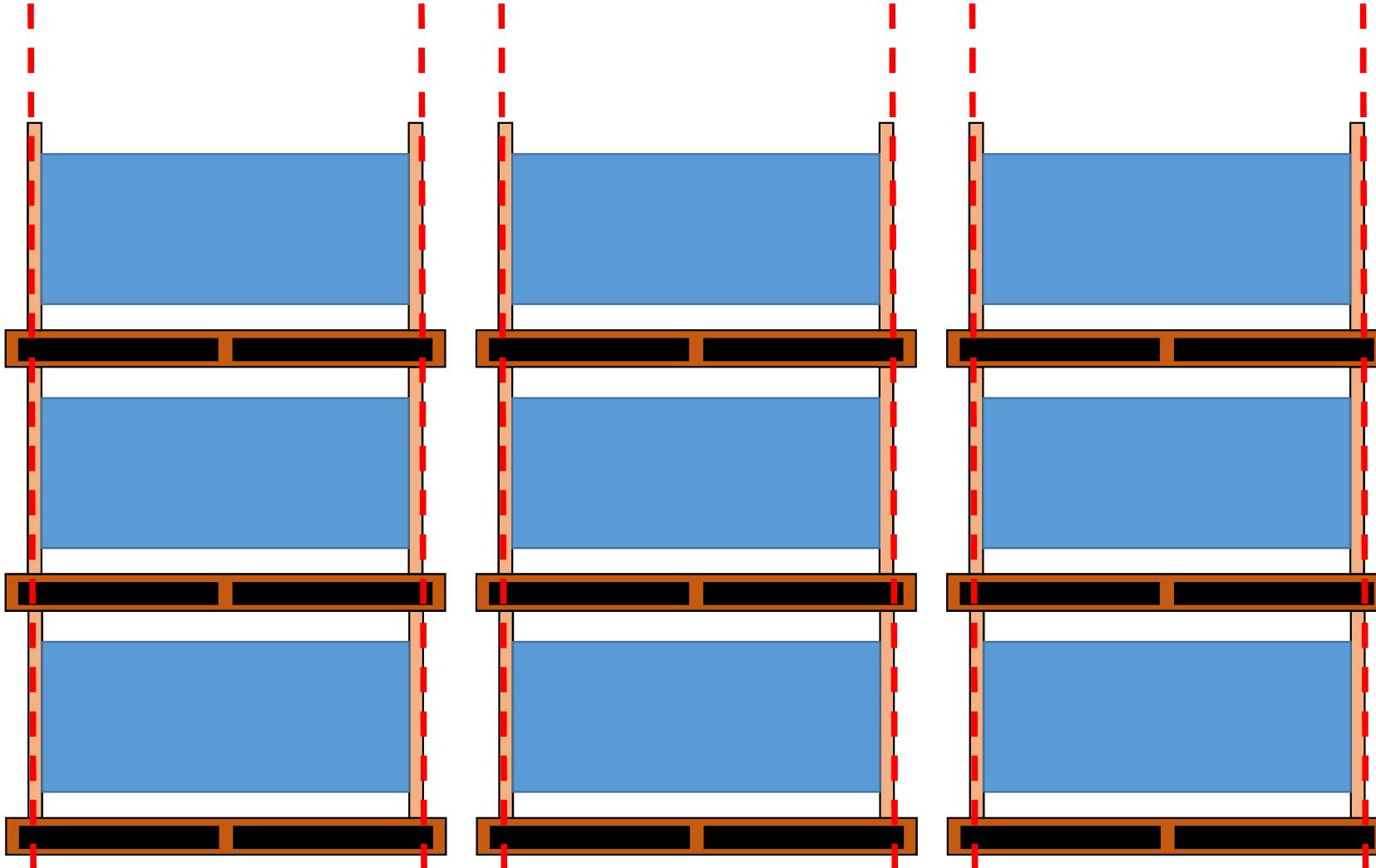
フィルム(原反)P/L品の荷扱い方法 注意⑤ー2



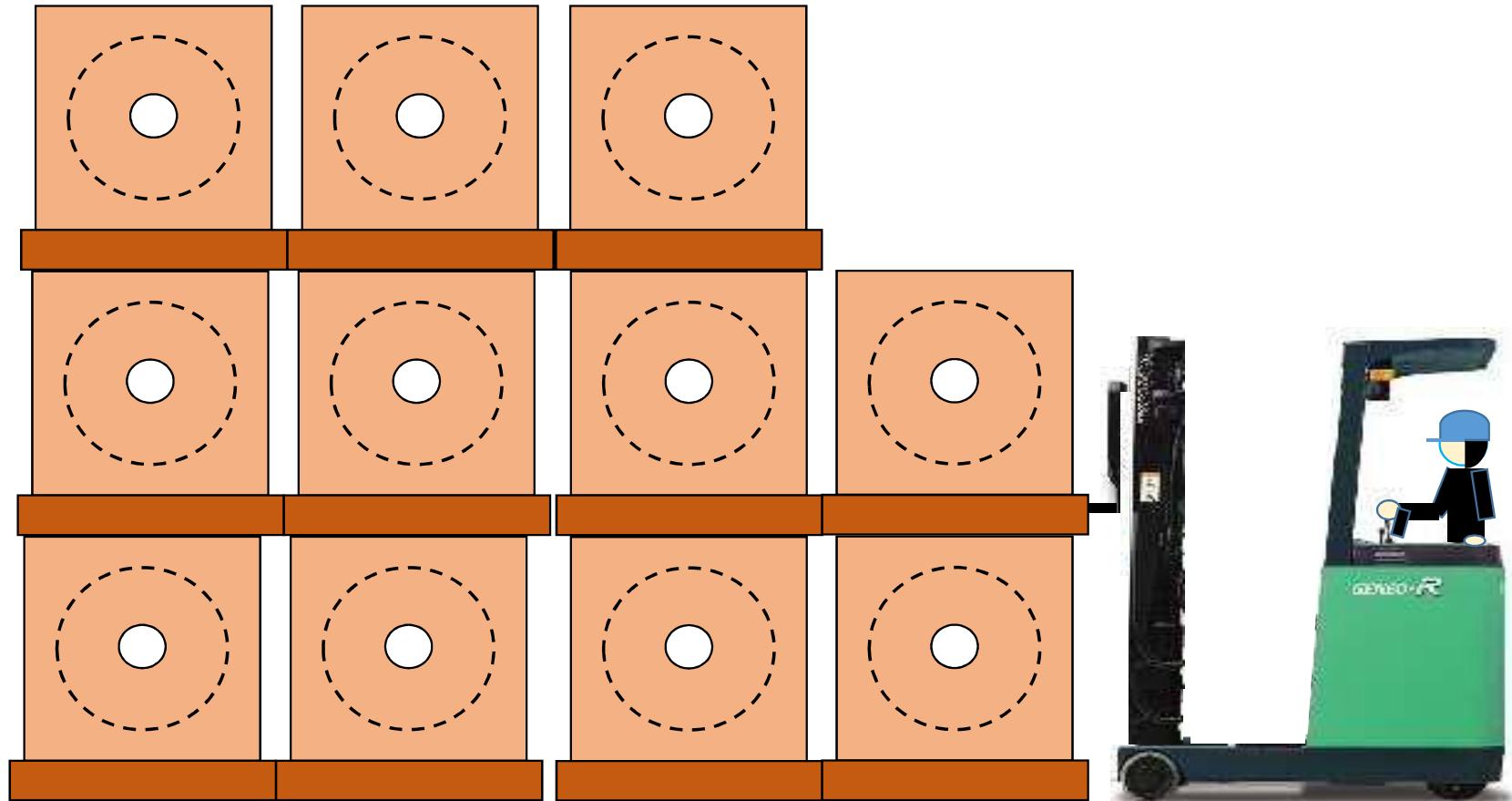
フィルム(原反)の保管方法



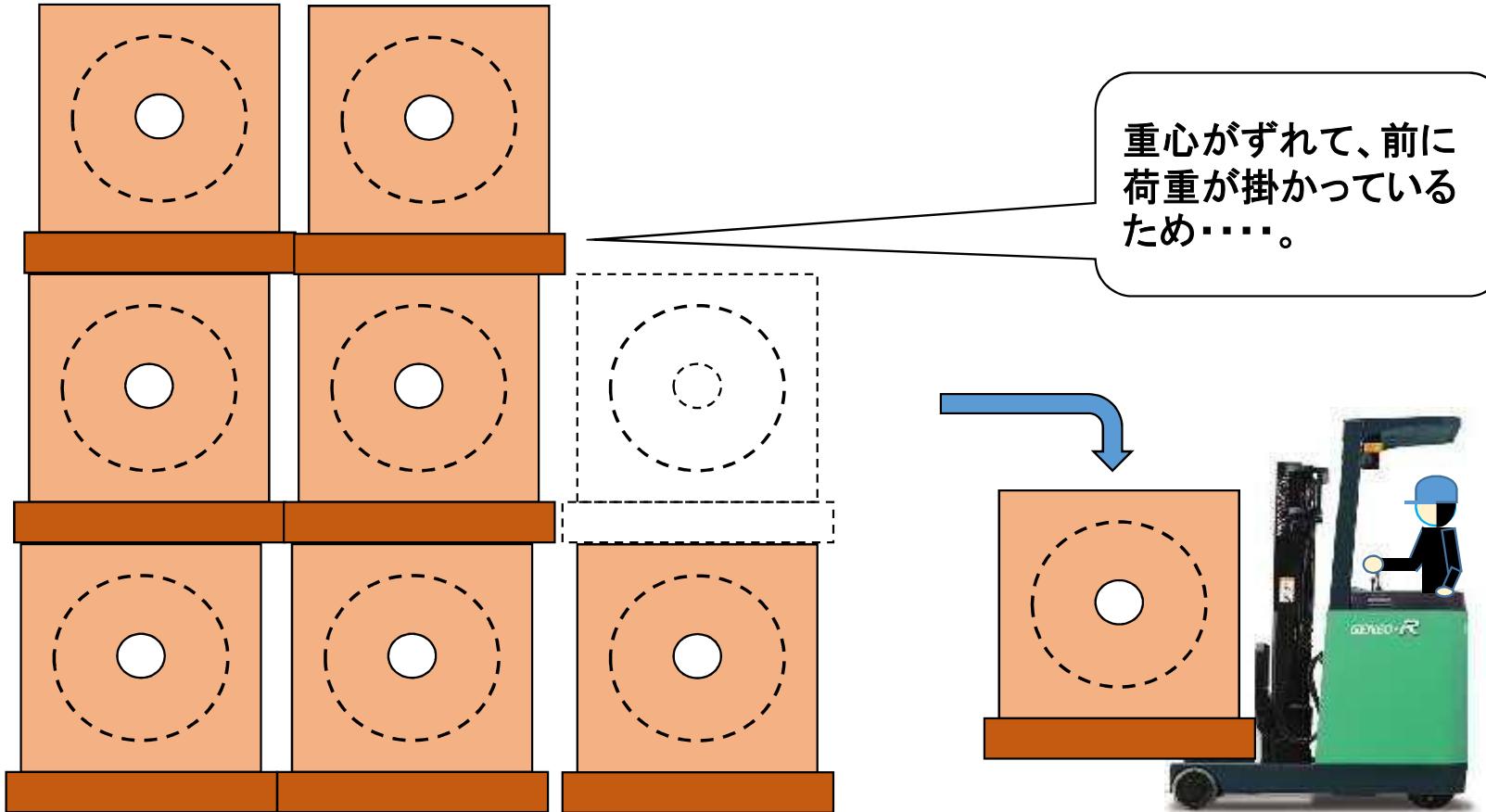
正面から見るときれいなハイ付けですが…



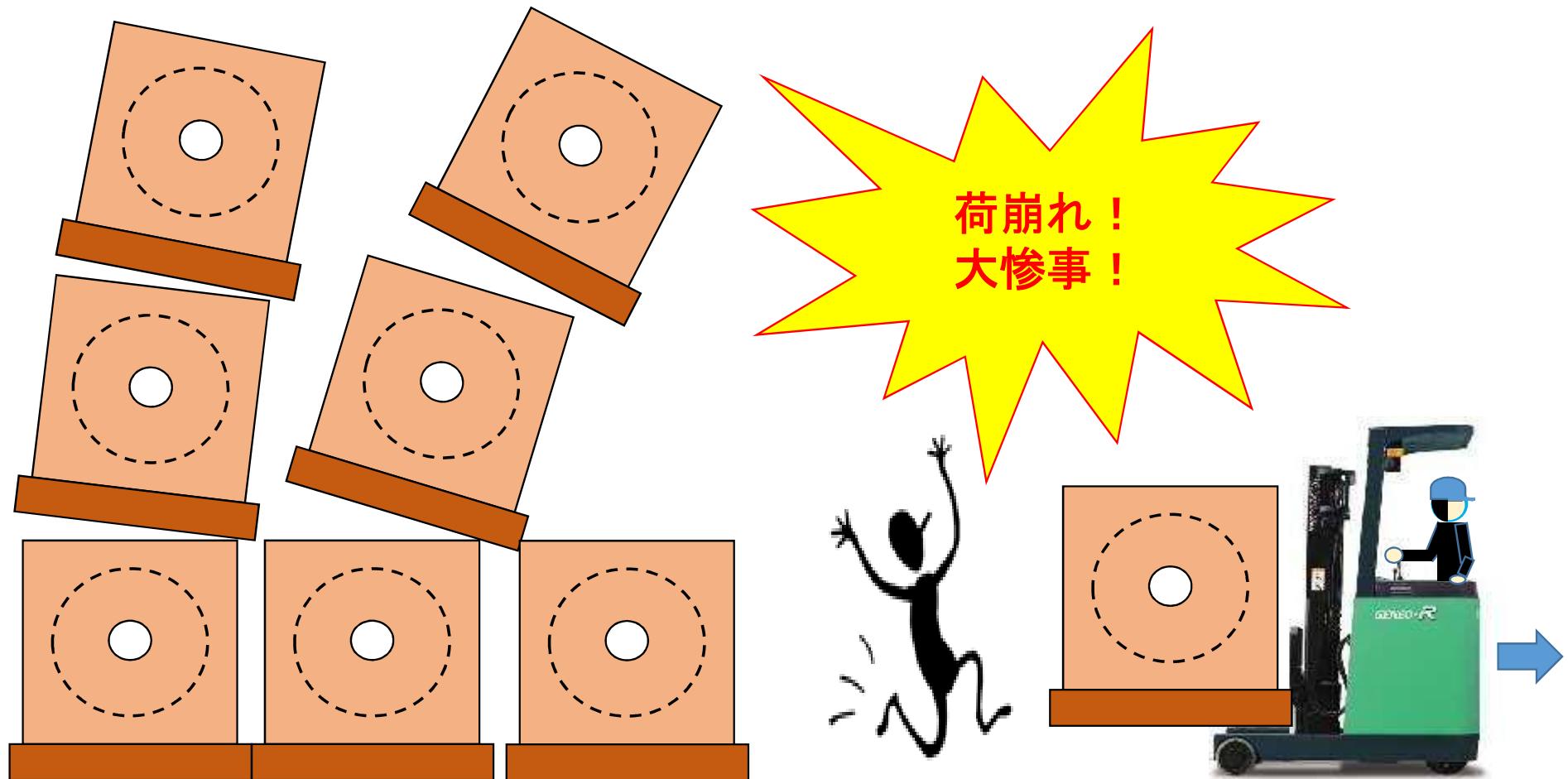
こんなハイ付けしていないですか？



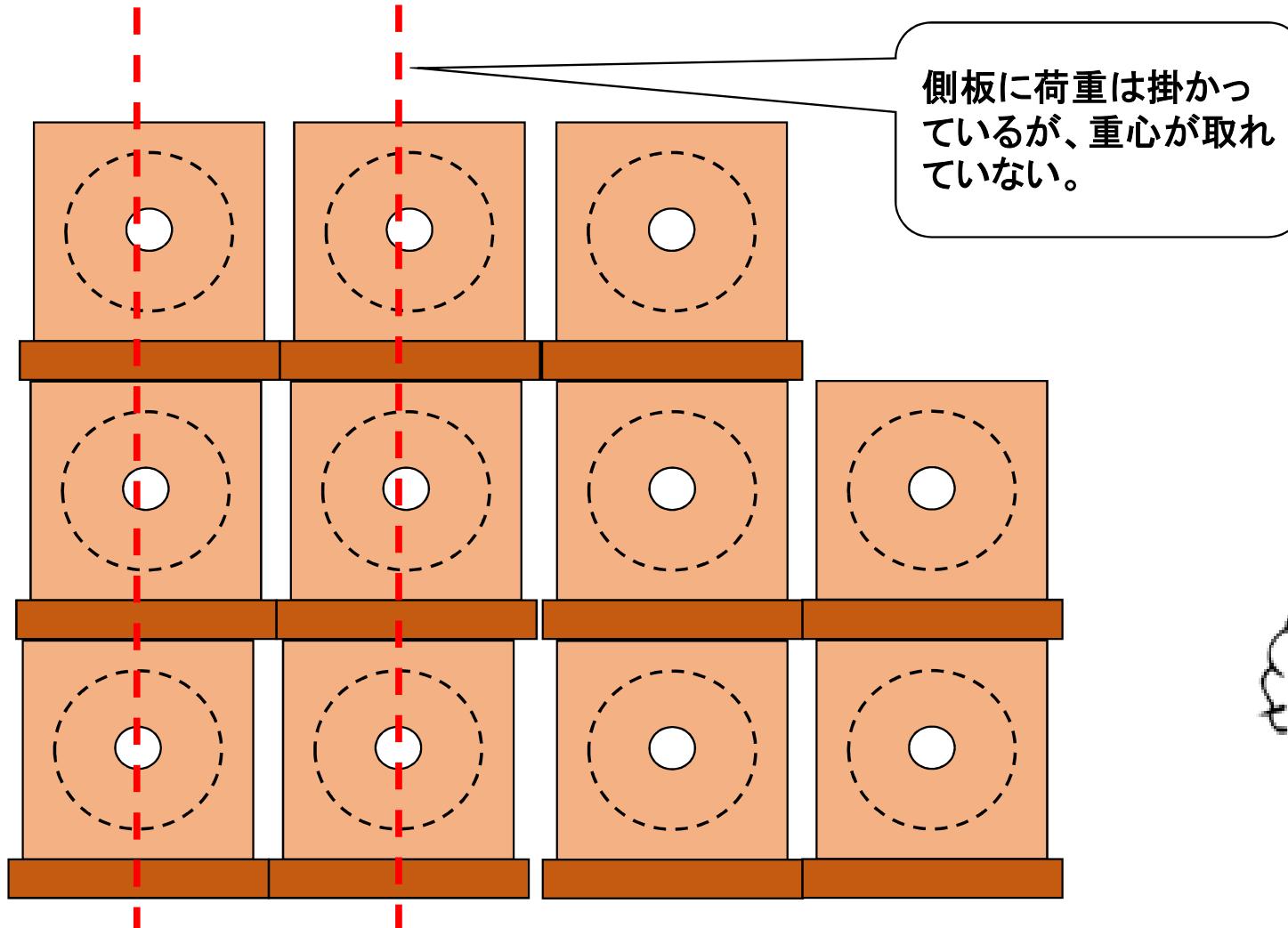
知らずにハイ取りをしてしまうと…！



前方に傾いていた貨物が！

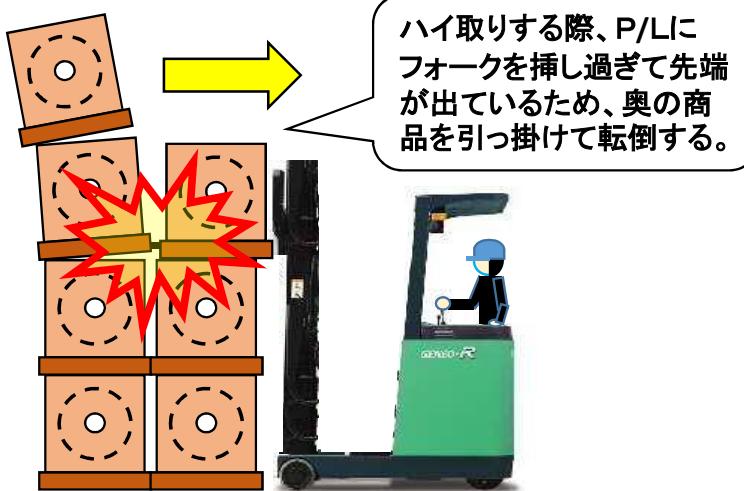
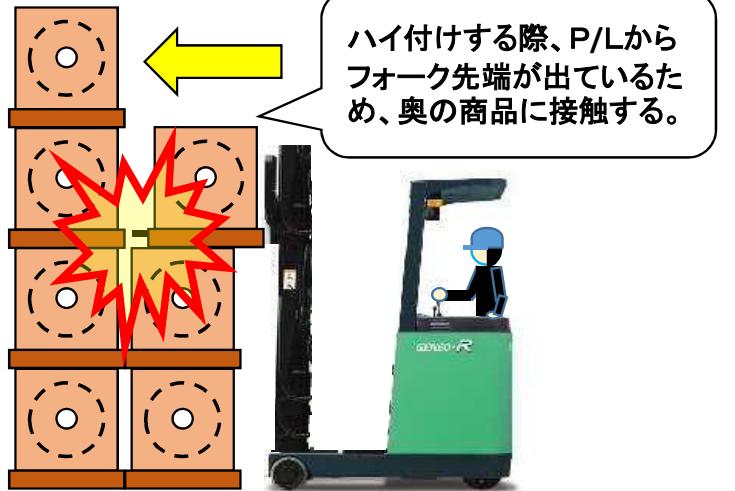


このハイ付けの何処がいけないですか？



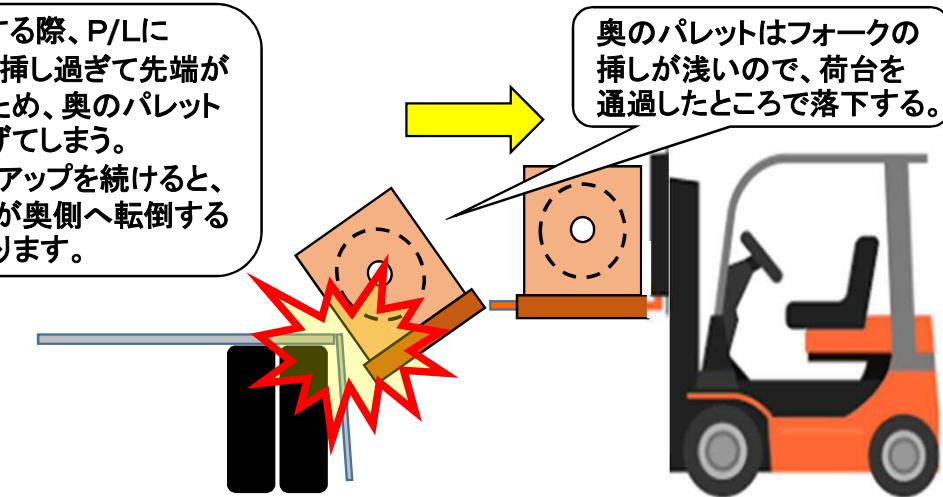
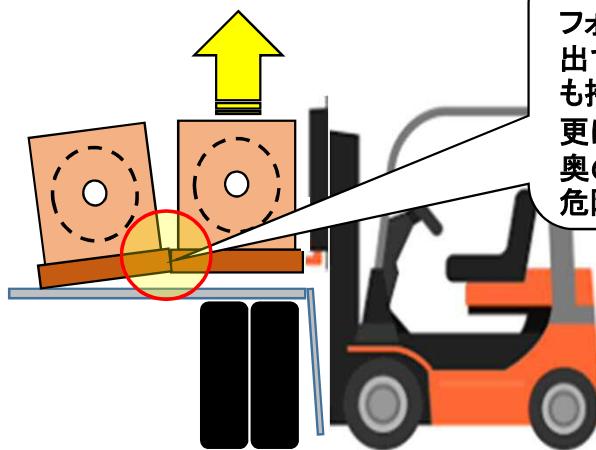
ハイ付け・ハイ取り・荷下ろし時の注意点

【ハイ付け・ハイ取り】



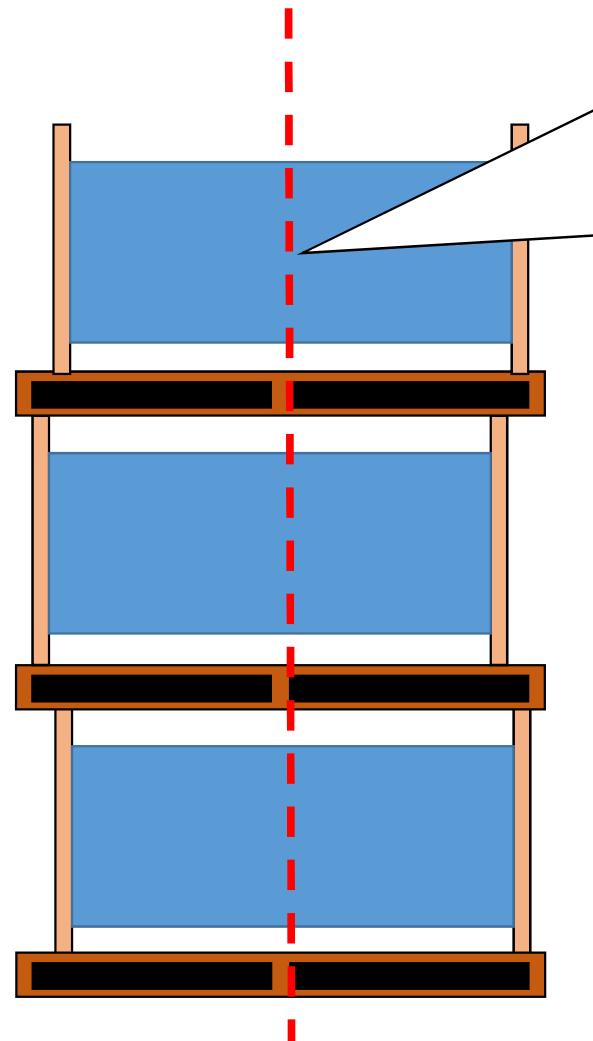
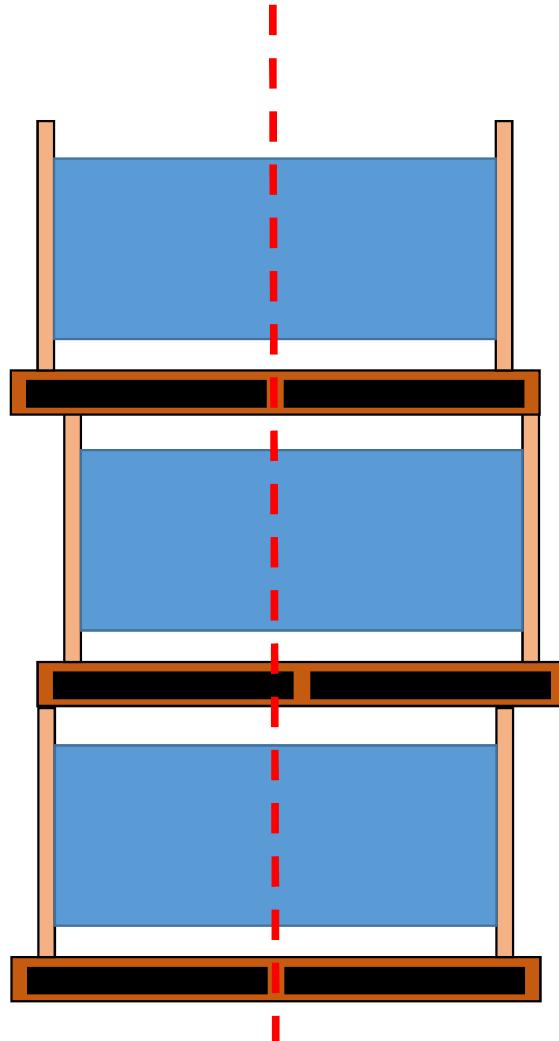
パレットサイズが表記されている場合もあります。20頁参照

【荷下ろし】



事故発生日
2023年4月6日
落下事故

悪いハイ付け例①

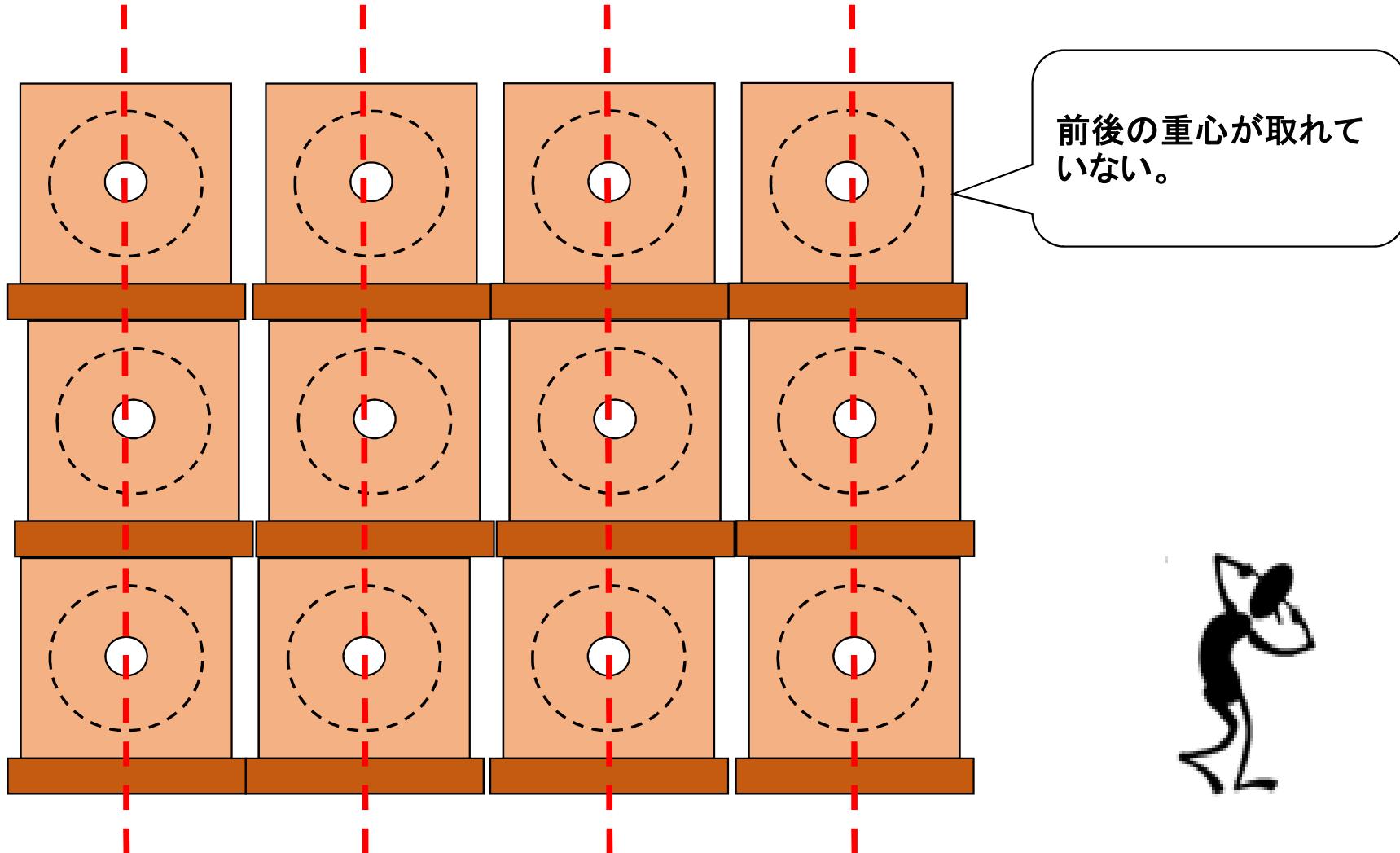


上下の側板同士に荷重が掛かっていないため、重心がずれている。
また、P/Lが割れたりする可能性があり、荷崩れにつながる可能性が大！

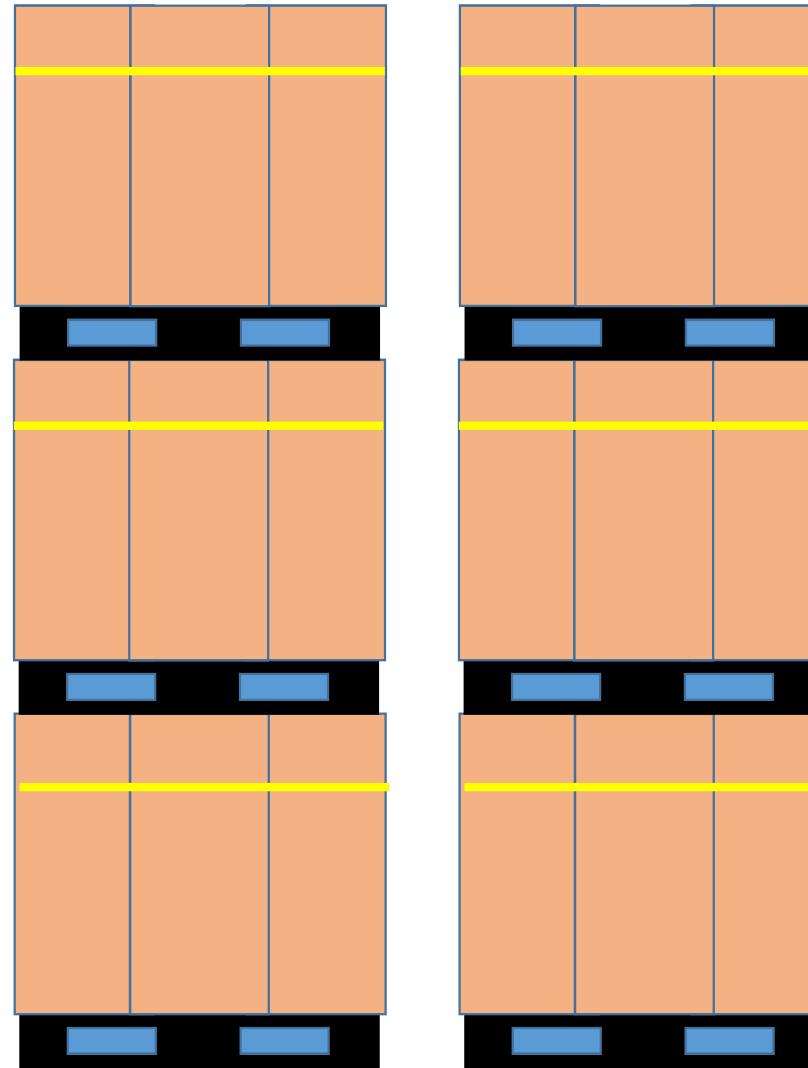
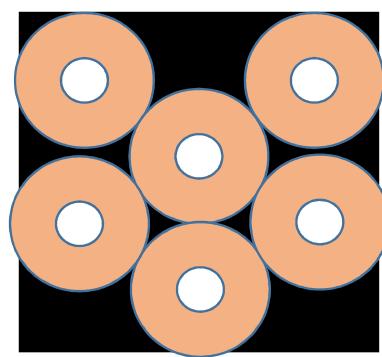
荷崩れの可能性大！



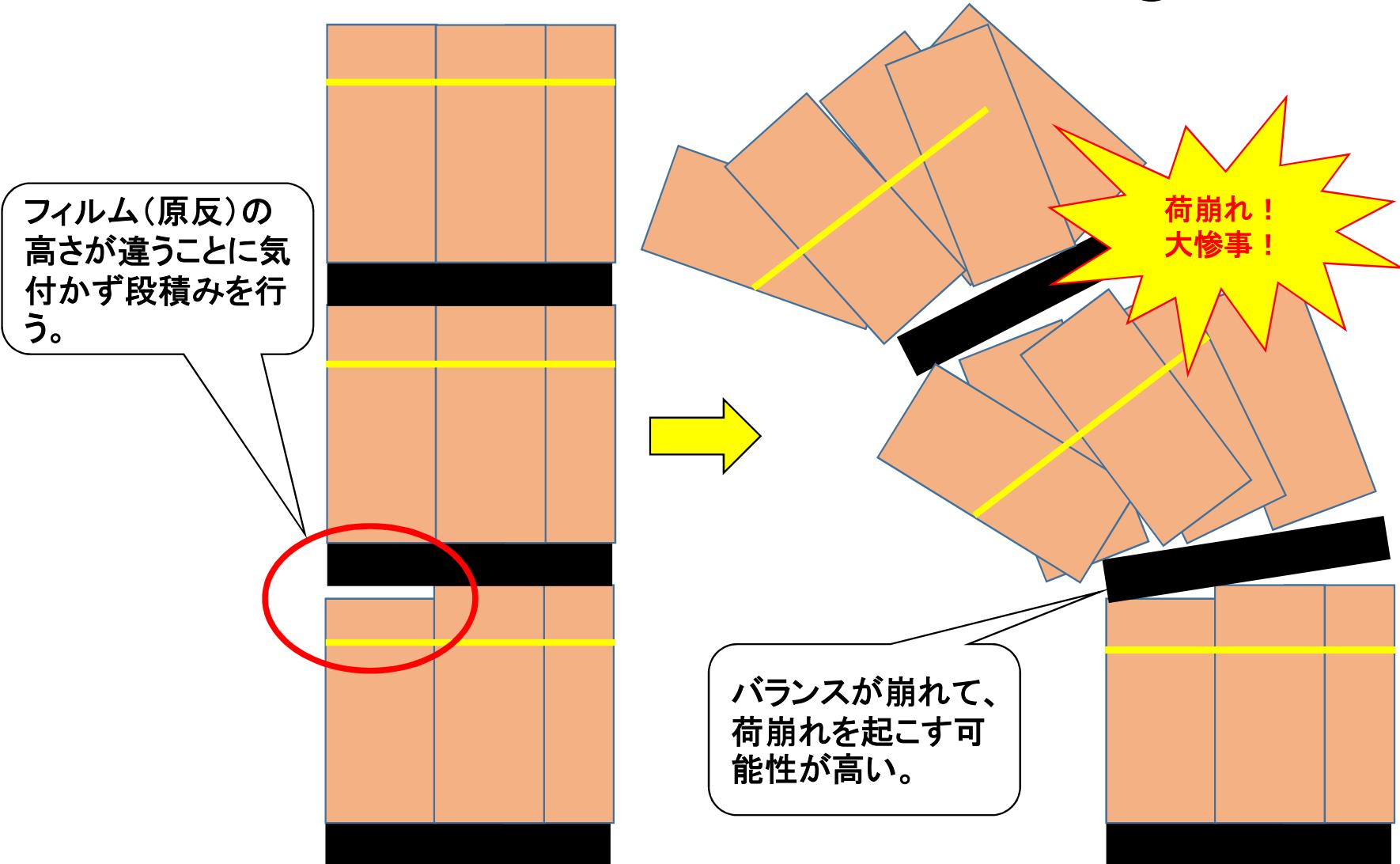
悪いハイ付け例②



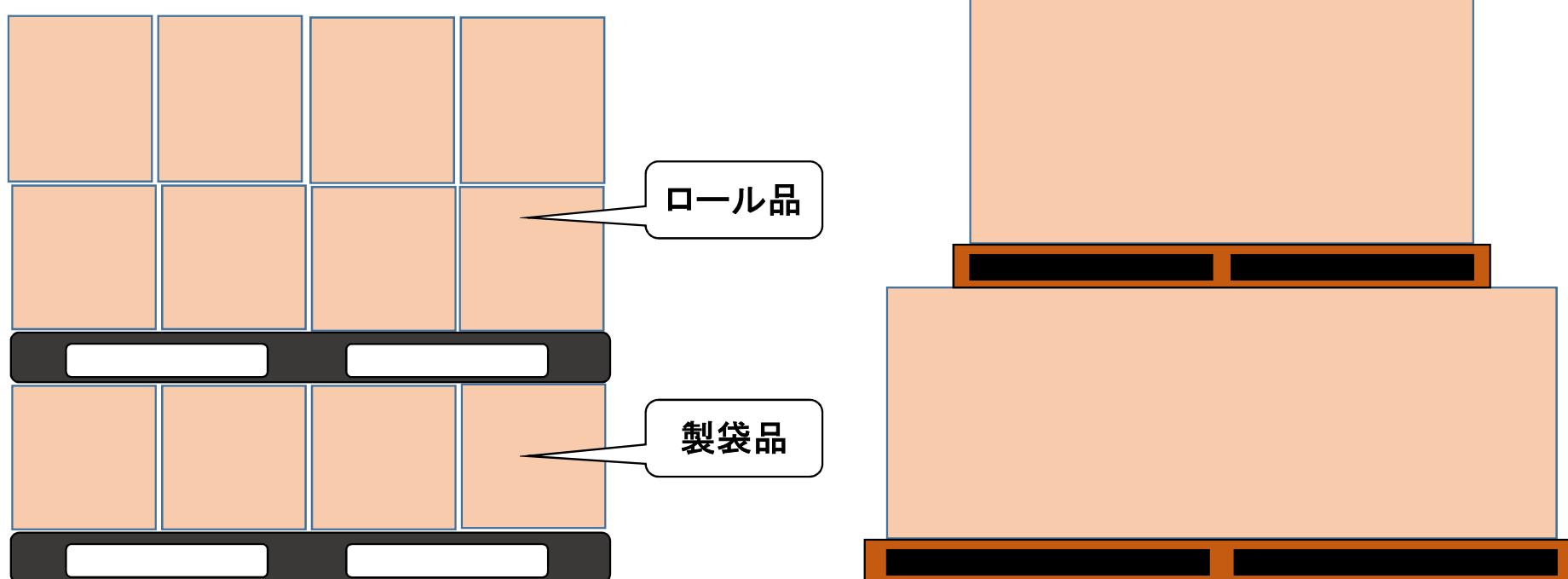
正面から見るときれいなハイ付けですが…③ー1



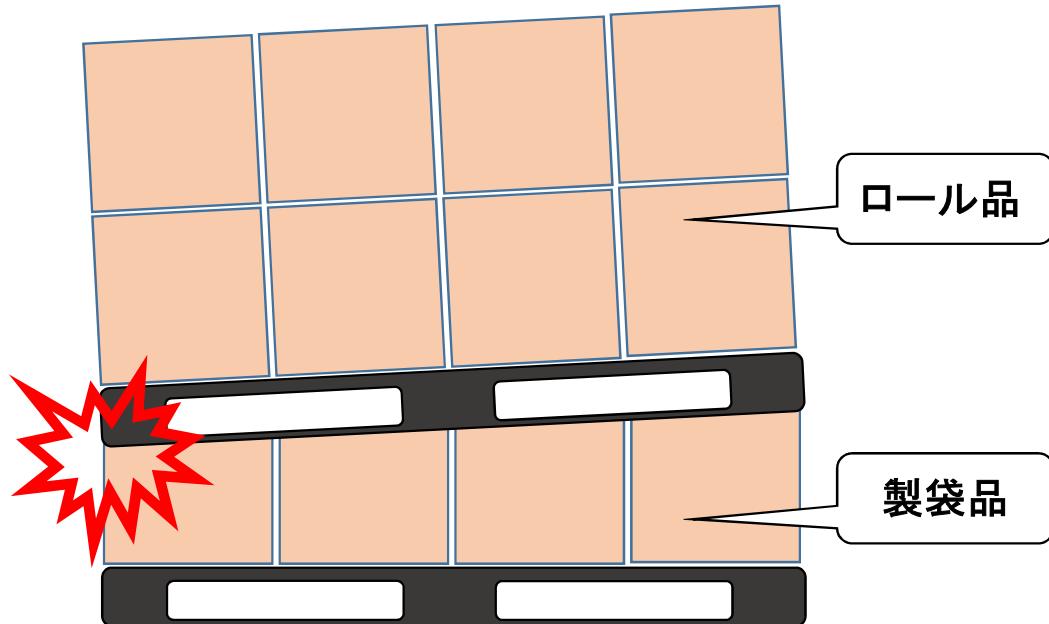
こんなハイ付けしていないですか？③－2



正面から見るときれいなハイ付けですが…④ー1

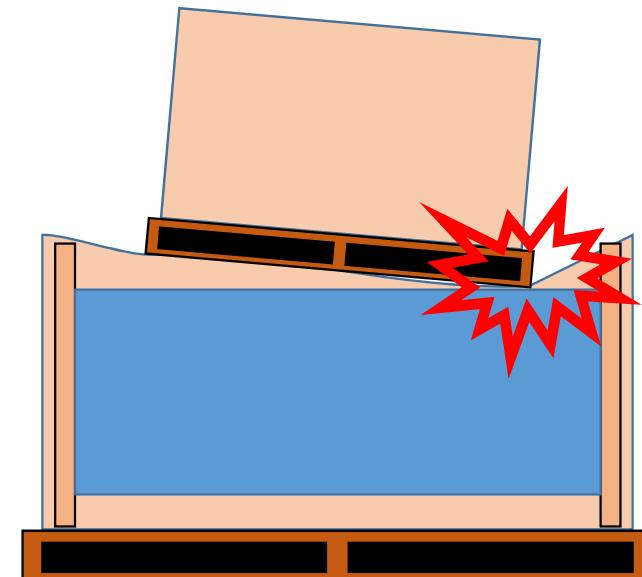


こんなハイ付けしていないですか？④－2



ロール品と製袋品は見た目が一緒に見える為、注意が必要。製袋品は上部からの圧力には極端に弱くなっています。

保管時、仮置き時に上部に重量物を載せてしまうと箱が潰れ、荷崩れ事故に繋がる恐れがあります。ラベル表記をしっかりと確認して荷扱いしましょう。



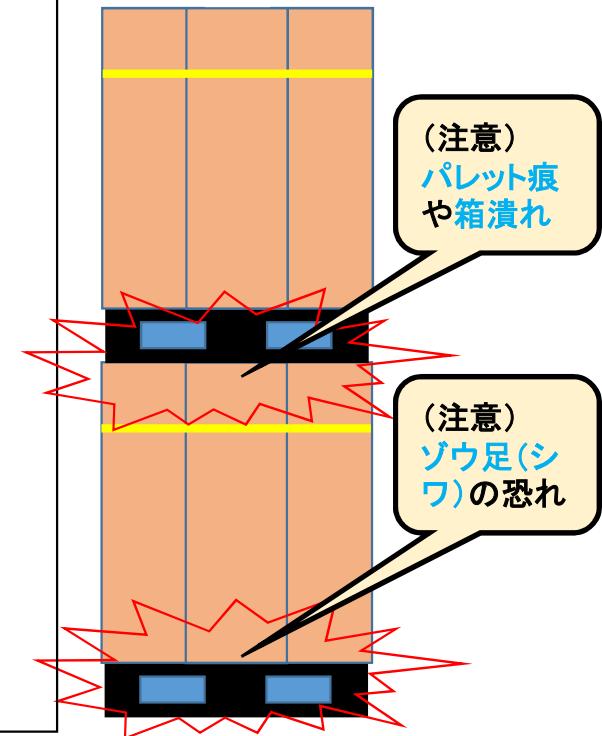
横置き宙吊り品は側板間が空洞となっています。側板に掛からないサイズのパレットを載せてしまうと上段の商品が落ち込み、中身の製品に接触、破損する恐れがあります。特に中身の見えないケース品は十分に注意しましょう。

縦置きフィルムの段積み保管する際の注意点

- ・外装天面にパレット痕が付いてしまったり、箱が潰れてしまうことがあります。
- ・総重量や材質によって異なりますが、段積みで長期保管すると最下部がゾウ足(シワ)になり、拡がってしまうことがあります。

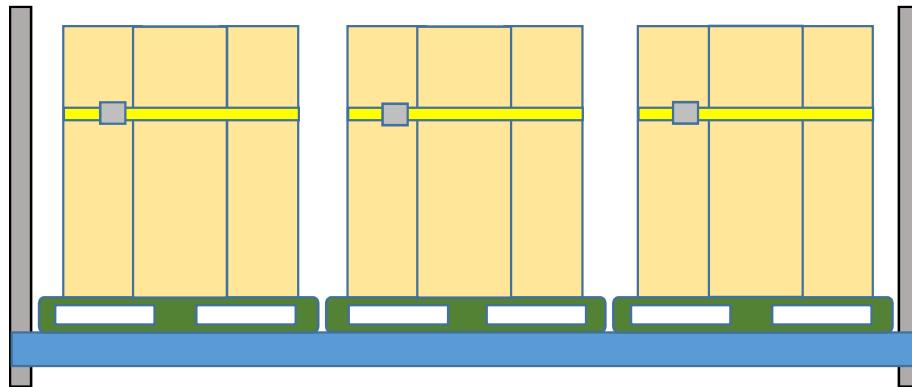
※縦置きフィルムの段積み保管はフィルムや外装に不具合が生じることがあります。段積み保管を行っても良いフィルムなのか、安全に段積みを行う手順などを現場責任者へ確認し、許可を受けてから開始しましょう。

※保管品は、倉庫内であること。

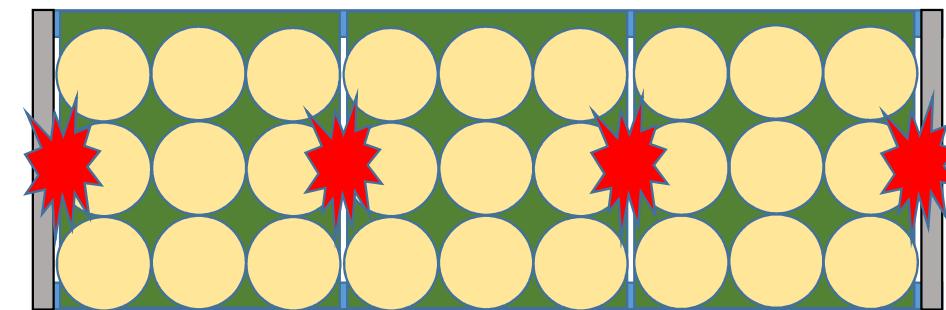
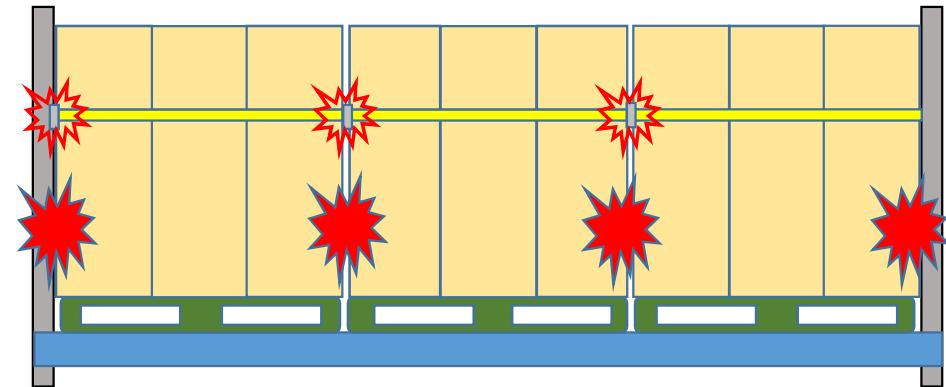
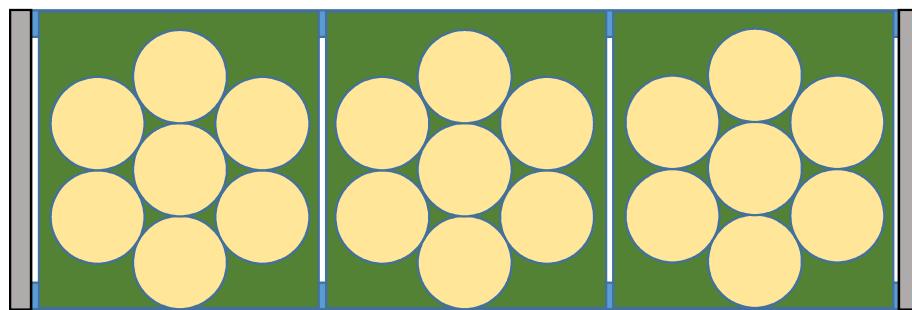


移動ラック・固定ラックへ棚入れ前の注意点

正面

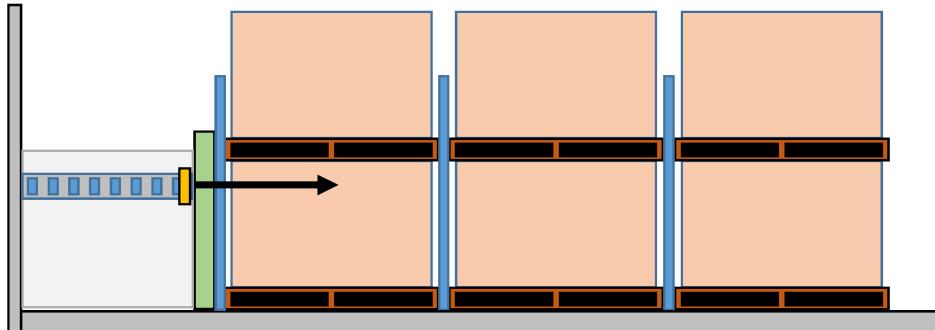


真上

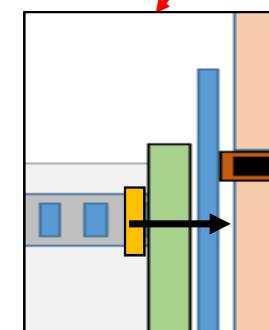
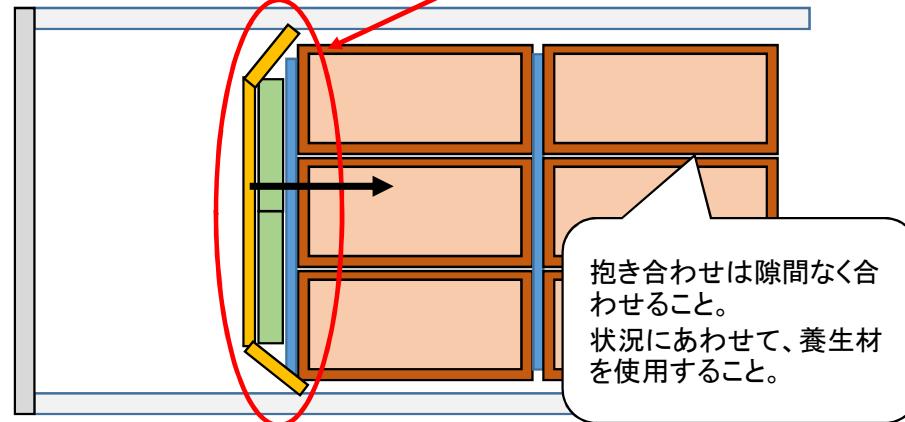
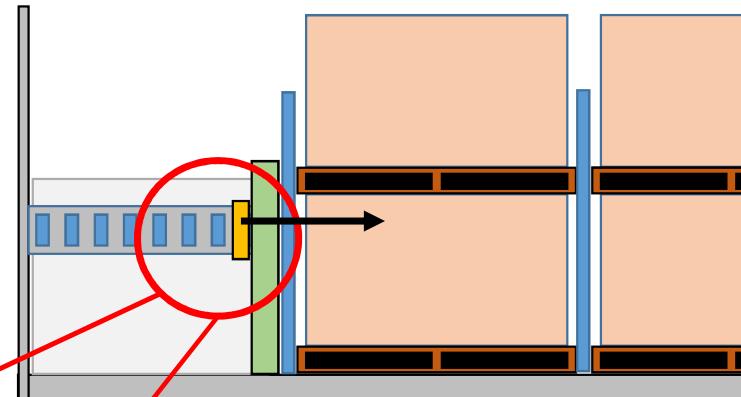


右の図のように、パレットより左右へ荷物が出ていると、棚入れの際に荷物同士が接触してしまいます。うまく棚入れが出来たとしても、取り出す際に接触するリスクがあります。接触すると外装破れやフィルムに傷が付いてしまいます。最終的にはお客様へ迷惑が掛かってしまいます。左の図のように、パレット内に荷物が収まっていれば荷物同士の接触を避けることが出来ます。固定バンドの金具も左右の位置にあると接触破損に繋がりますので避けましょう。私達デリバリーは入庫した荷物に適した保管を行い、その状態を維持し、出庫することが我々の仕事です。倉担当者以外の人でも安全に作業ができる状況をつくりましょう。

車両へ積み込む際の養生について①



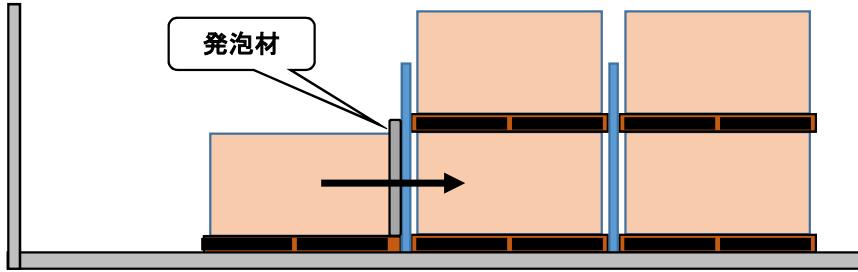
BOXパレット積込時は、基本前後の仕切りは厚手のプラダンもしくはコンパネを使用し隙間が出来ないように積み込むこと。最後尾の貨物が図のように段積となる場合は、荷崩れを防止するため木製もしくはプラパレで硬質なものを使用して押さえラッキングベルト・ラッキングバー(あおり)を掛ける。



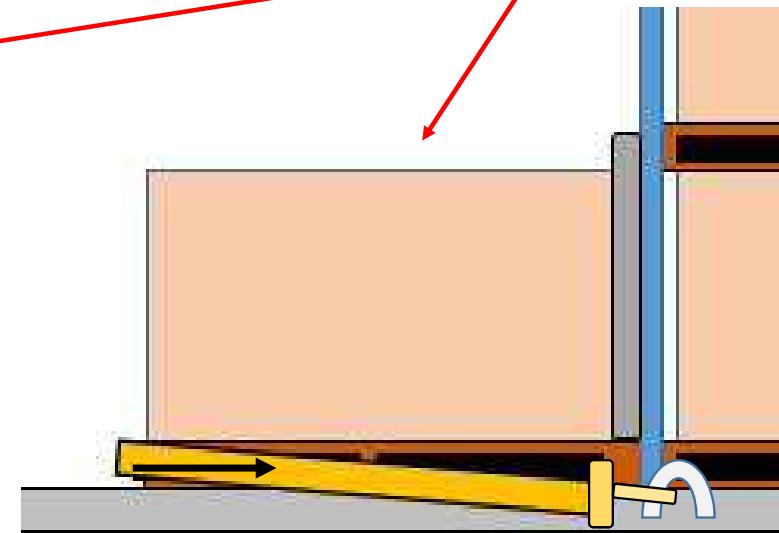
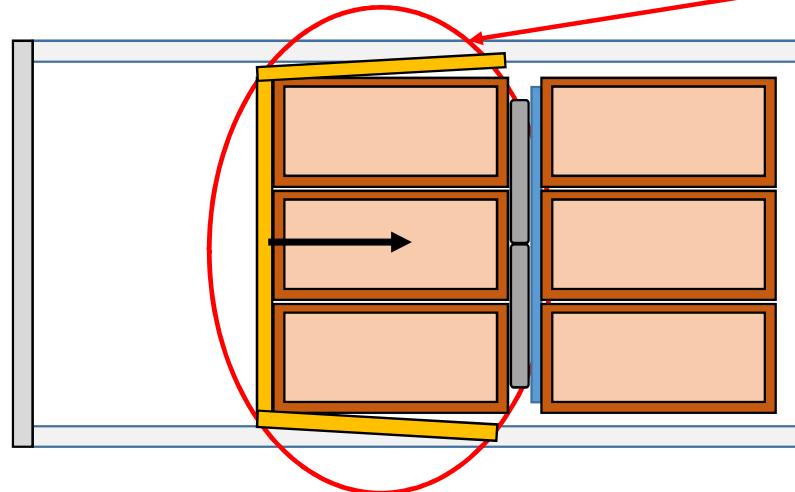
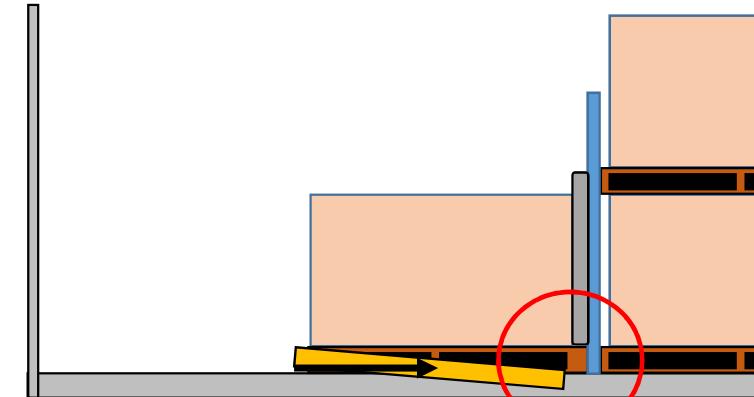
事故発生日:
2021年4月1日
荷崩れ事故



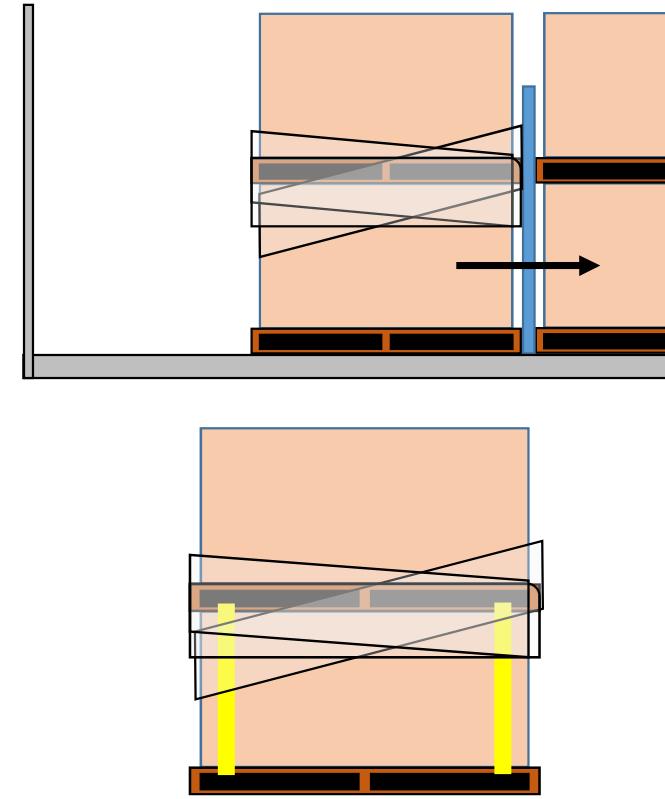
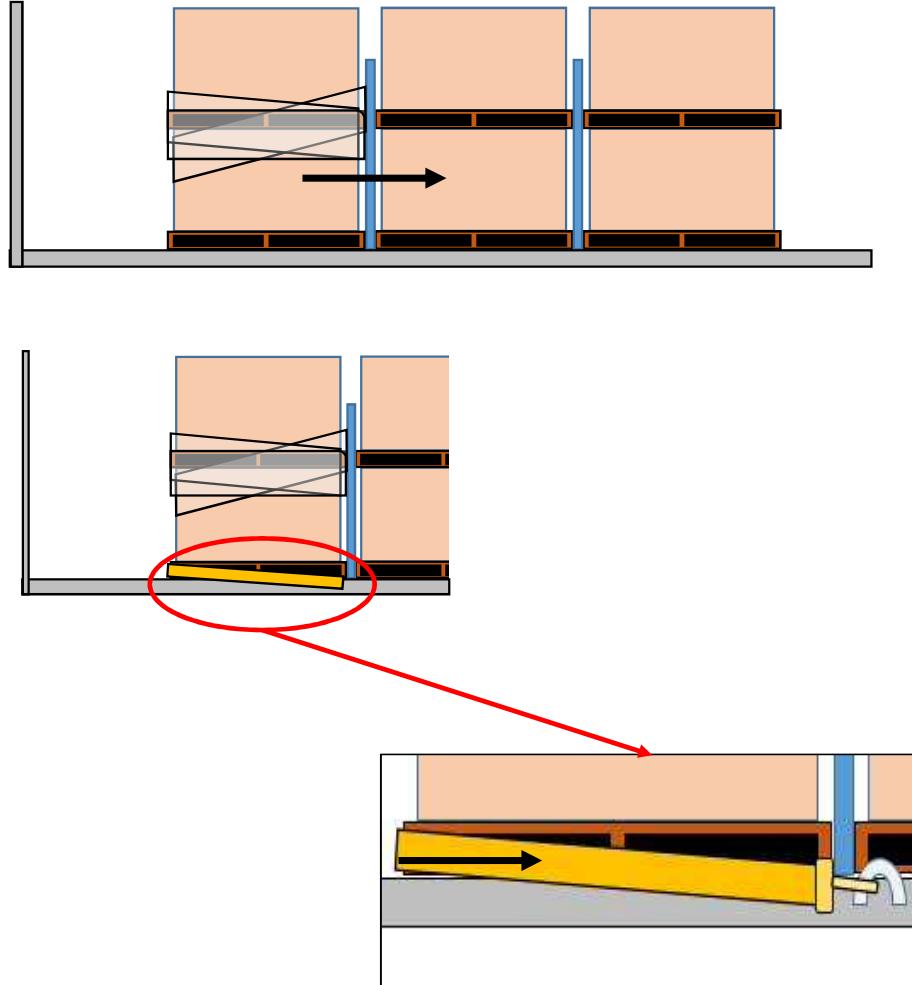
車両へ積み込む際の養生について②



最後尾の貨物が図のように平積となる場合は、荷崩れを防止するため隙間を埋めるため発泡材を使用すること。
また床フックのラッシングベルトがあれば使用すること。



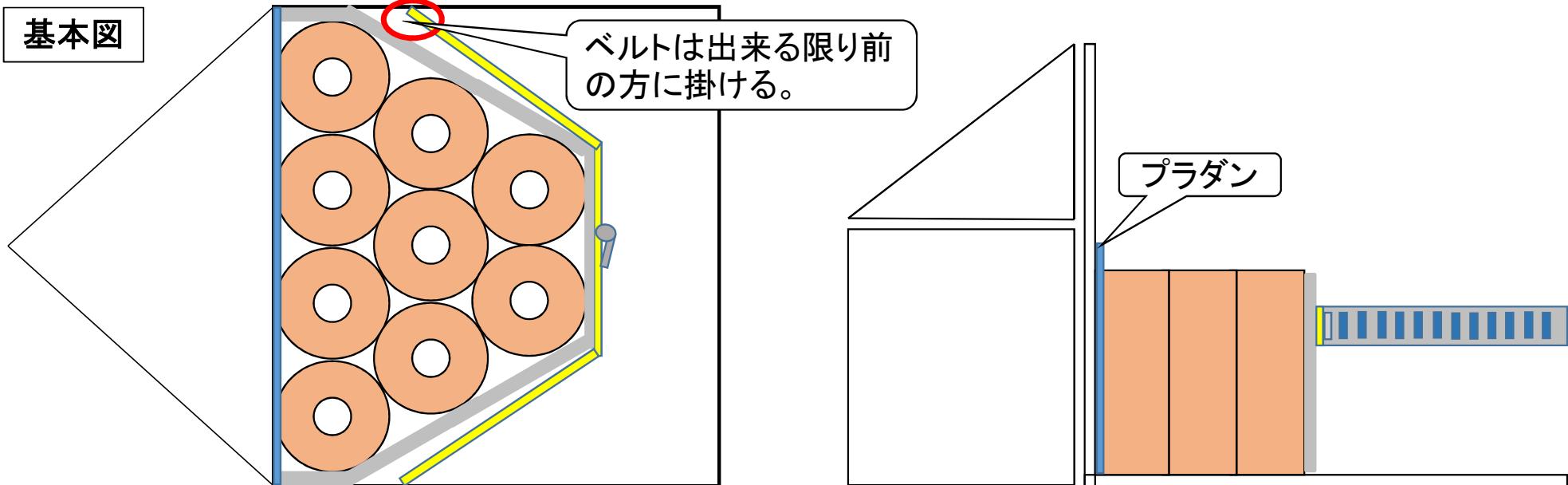
車両へ積み込む際の養生について③



最後尾の貨物が図のように段積となり、押さえるパレット
が無い場合は、上下段をバンドで固定するか、シュリンク
フィルムで貨物がずれないように固定して積込を行うこと。
また床フックのラッシングベルトがあれば使用すること。

車両へ積み込む際の養生について④

基本図



縦置きロール原反の養生については、基本図のようにピラミッド型で積み込み、発泡等で囲うように養生を行い、ラッシングベルトで固定する。

高さが同じであれば、隣り合った貨物の間に養生は基本必要としないが、図1のように高さが違う場合は、段ボール等の養生を行い、荷ずれによる破損が発生しないようとする。

注意：固定後には、貨物を触手で揺すってガタ付きがないか確認をする。
ガタ付きがある場合は、養生の追加または積み直しを行う。

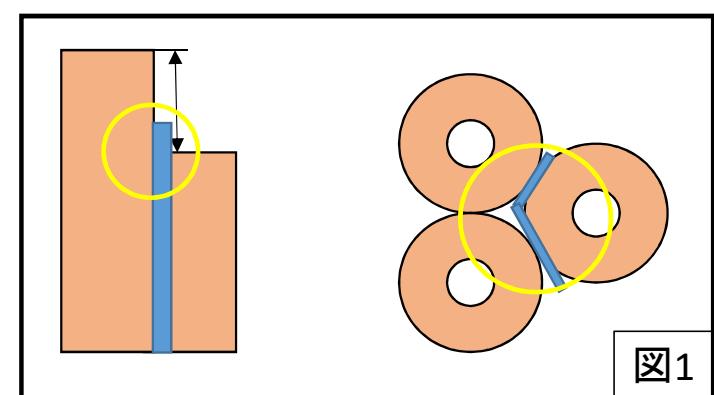
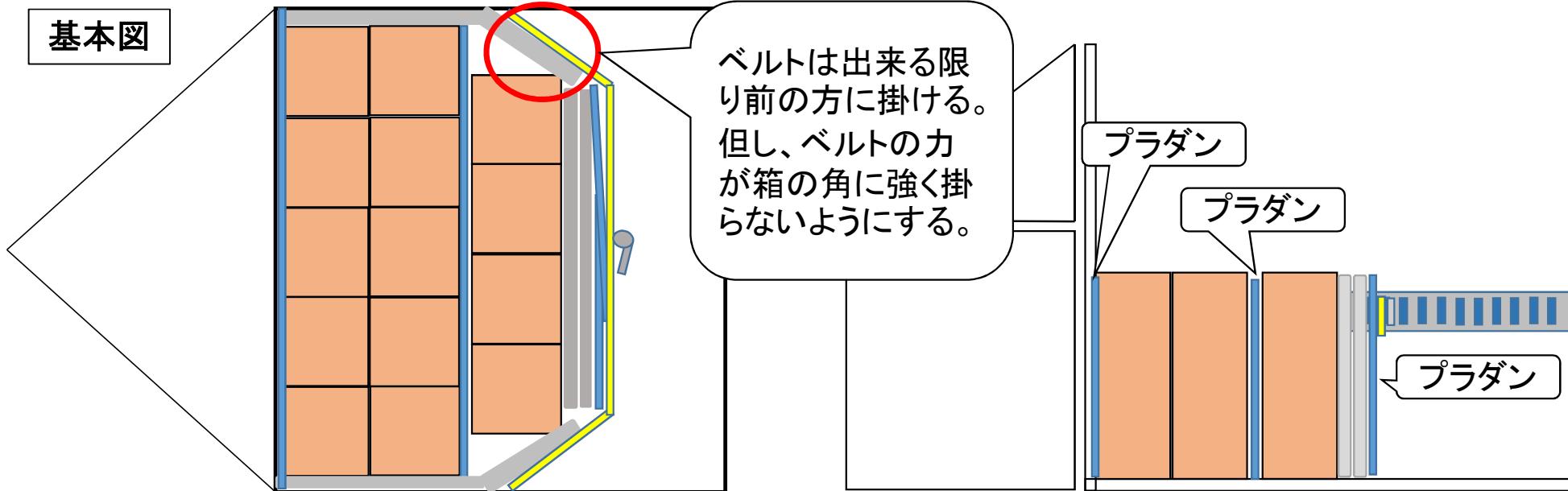


図1

車両へ積み込む際の養生について⑤

基本図



縦置き箱入り原反の養生については、基本図のようにピラミッド型で積み込み、発泡等で囲うように養生を行い、ラッピングベルトで固定する。

但し配列が変わるのは、ロール原反と違い押さえが効かないで変わり目に厚めのプラダンで仕切りを入れる。もしくは、コンパネ(板)を使用しても良いが、貨物に直接接触しないように、段ボール・プラダン等で接触を防ぐこと。

図1のように高さが違う場合は、プラダンの養生を行い、荷ずれ、箱の破損が発生しないようにする。

注意：固定後には、貨物を触手で揺すってガタ付きがないか確認をする。ガタ付きがある場合は、養生の追加または積み直しを行う。またベルトの力で箱の角が潰れないよう気を付ける。

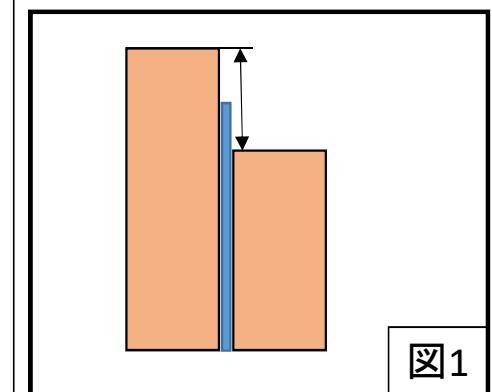
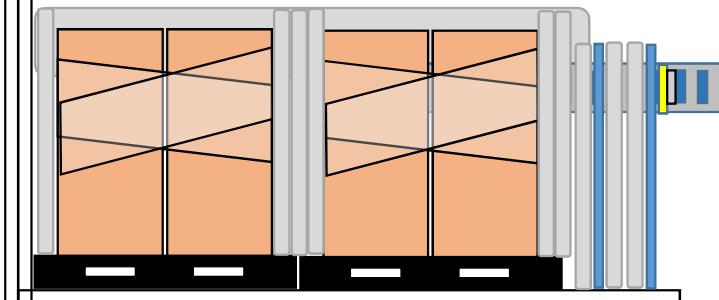
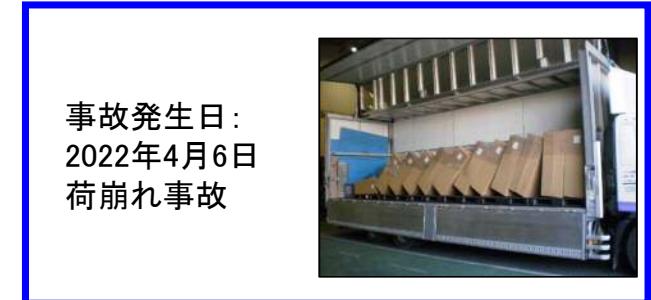
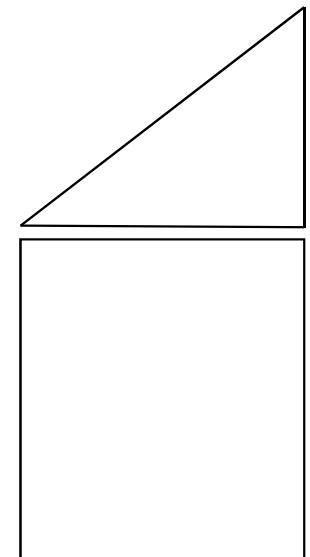
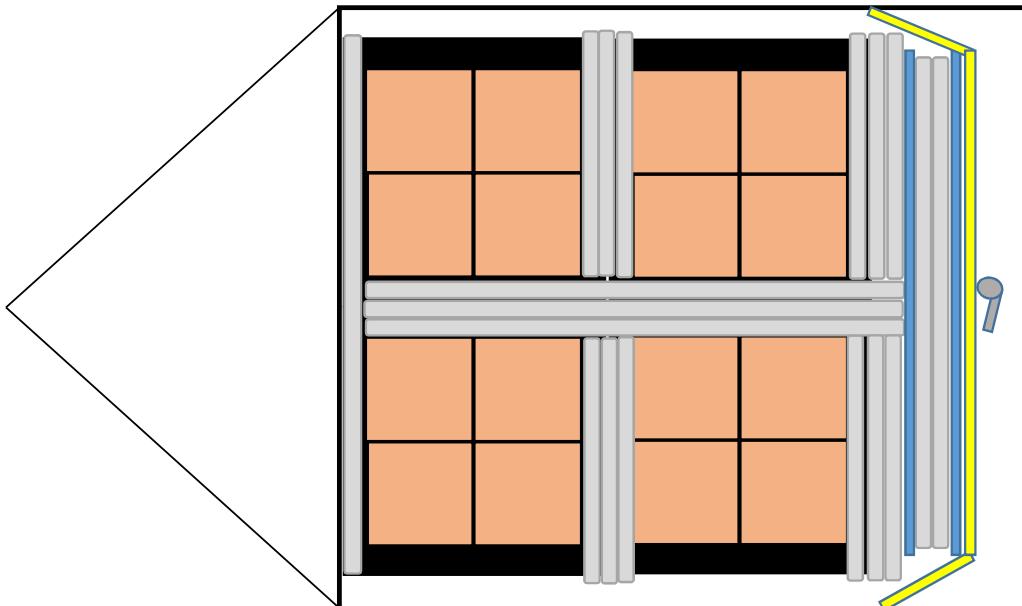


図1

車両へ積み込む際の養生について⑥-1

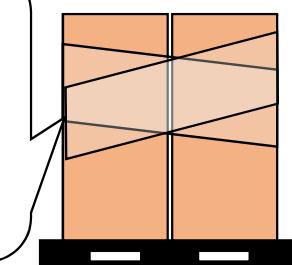
基本図



パレット積を行う際は、隙間が無いように発泡等で養生を行なう。但し基本図のように前後の養生が基本で左右については、可能であれば養生を行いラッシングベルトで固定する。

注意：パレットの貨物はラップ等でしっかりと固定を行うこと。
また、隙間が無いようにしっかりと養生を行うこと。

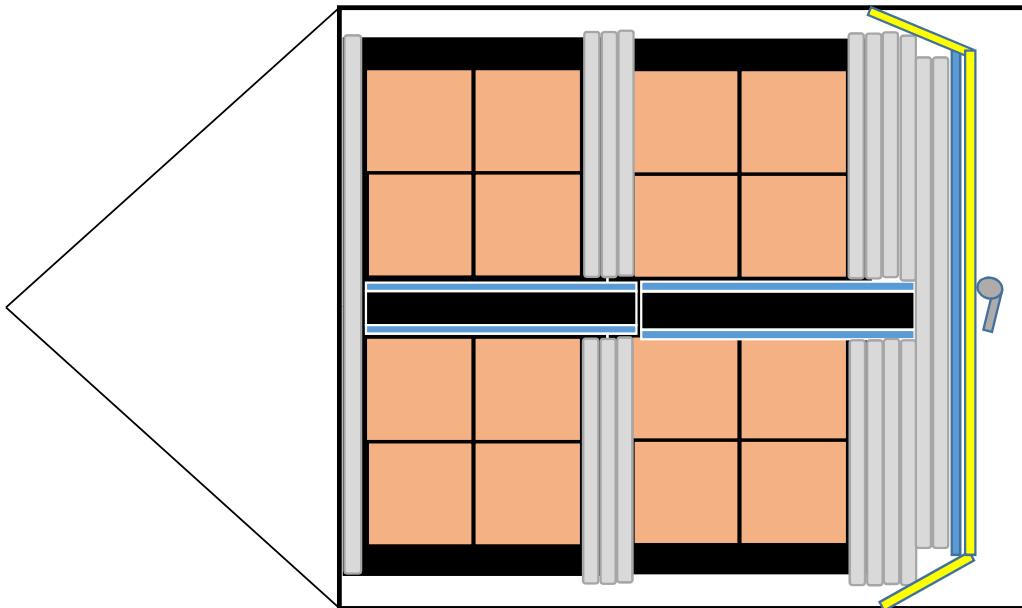
貨物はラップで固定。
但し、強く巻くと箱が潰れる恐れがあります。



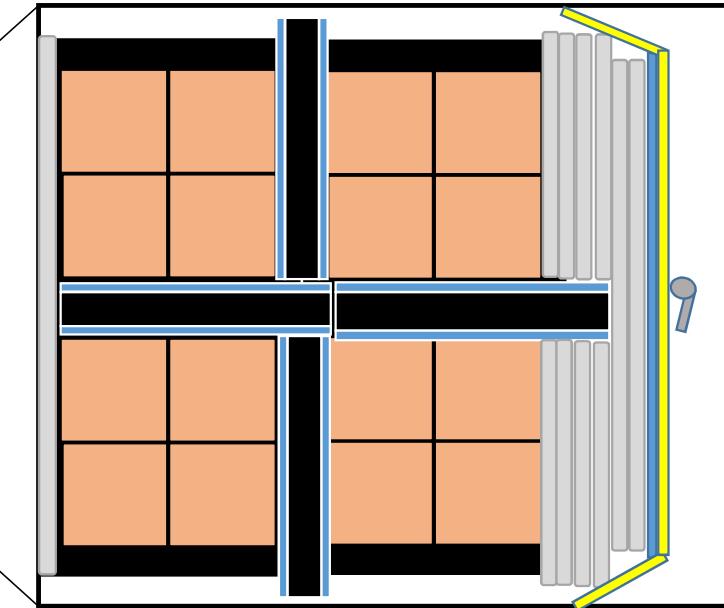
発泡の代わりにパレットを使用する際は、直接貨物に接触しないようにプラダン等で接触を防ぐこと。



車両へ積み込む際の養生について⑥-2



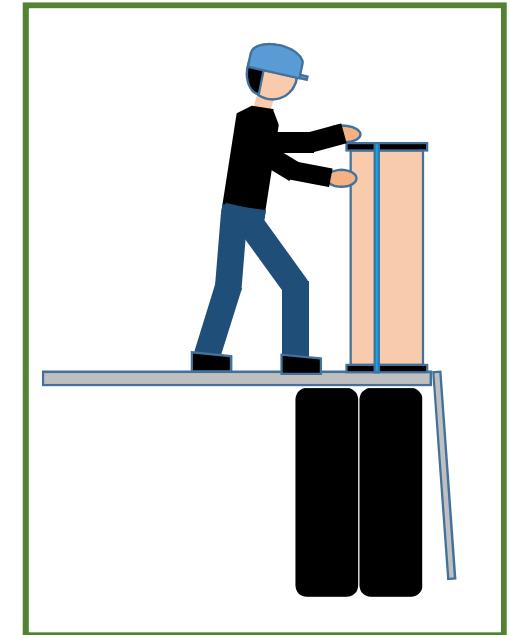
例－1



例－2

基本⑥-1のパレットを使用した例となります。

車両荷台上での荷扱い注意

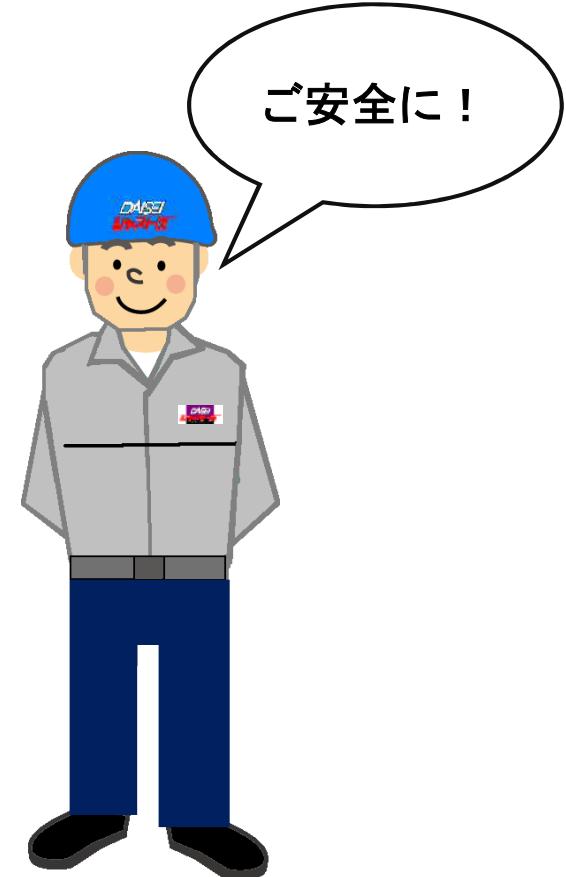


フィルムのハイ付け、積込み技術の大切さ

- ・前述の要領に則りフィルムのハイ付け、荷扱いをすれば荷崩れや破損を起こさず、安全なハイ付け、積込みが出来るという訳ではありません。商品の性質や状態を認識し、安全にハイ付け、積込みするには技術・知識・経験が必要です。
取扱いに慣れたからという思い込みは重大事故の原因となります。荷物も大ですが、場合によっては自分自身また仲間の命に関わる大きな事故に繋がりかねないということを十分に認識し、安全で安心できる安定したハイ付けを日頃から心掛けましょう！
- ・ハイ付け、積込み作業は、実践を通して技術の向上をはかりますが、先ずは導入教育と直接技術を指導することが重要です。未熟な人への教育に際し作業から目を離すことなく指導することを常に心掛けましょう。
安全なハイ付け、積込み技術を継承することを、管理者・リーダーの方は心掛けましょう。
- ・3H作業時(初めて・久しぶり・変更)または4M変更時(人・機械・方法・材料)には、教育をしっかりと行うこと。必要に応じて要領・手順書などを見直し作成を行い、作業者に十分理解させた上で作業をさせましょう！

朝起きたらすぐ行きたくなる 会社を作りましょう！

明るく！ 楽しく！ そして遅しく！



所属センター名：

名前：